富 山 県 文 化 振 興 財 団
埋蔵文化財発掘調査報告第10集

能越自動車道関係

埋蔵文化財包蔵地調査報告

——NEJ－10·NEJ－11——

1999年 3 月

財団法人富山県文化振興財団
埋 蔵 文 化 財 調 査 事 務 所

序

能越自動車道は富山県西部及び石川県能登地域の高速交通体系の確立・地域の活性化をめざし、小矢部ジャンクションから高岡市を通過し石川県輪島市に至る路線として計画されました。

当調査事務所ではこの能越自動車道建設に伴い平成４年度から発掘調査・遺物整理の事業を実施いたしております。発掘調査事業は、今年度までに五社遺跡・開薛大滝遺跡・石名田木舟遺跡・地崎遺跡・簑島遺跡・江尻遺跡・下老子笹川遺跡・近世北陸道遺跡の調査が終了しました。

本書は、高岡市国吉地内に所在するＮＥＪ－10・ＮＥＪ－11埋蔵文化財包蔵地における遺跡範囲や遺存状況などを把握するために実施した発掘調査の結果を報告したものです。調査の結果、古代・中世の手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡の一部が確認されました。この調査の成果が、今後の遺跡の理解や研究の一助になれば幸いです。

最後に、今回の調査に当たり、格別のご協力とご配慮を頂いた関係各位に深く感謝の意を表するしだいです。

平成１１年３月

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所
所長　桃野真晃

例　言

1　本書は、平成10年度に高岡市国吉地内の能越自動車道建設予定地で実施した埋蔵文化財包蔵地の試掘確認調査の報告である。

2　調査は、富山県教育委員会の決定に基づき、財団法人富山県文化振興財団が建設省北陸地方建設局からの委託を受けて実施した。

3　調査は、財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所調査第二課が実施した。調査員は次のとおりである。

調査第二課長狩野　睦、同主任岡本淳一郎・島田美佐子、同文化財保護主事越前慎子・山元祐人・中村亮仁・深堀　茜・柴口真澄・中野由紀子・町田賢一・上田尚美・新宅輝久・平井晶子・金三津英則

5　発掘調査・資料整理・本書の作成には、下記の方々から様々な援助をいただいた。記して深甚なる謝意を表したい。（敬称略・五十音順）

安念幹倫・境洋子・斎藤隆・高岡市・高橋真実・橋本正春・山口辰一

6　本書の編集は岡本が担当し、執筆は調査第二課員の協力を得て岡本・深堀・中野・平井、松田隆二（株式会社古環境研究所）が行い、執筆分担を各文末に記した。

7　ＮＥＪ－11のプラント・オパール分析は株式会社古環境研究所に依頼し、成果を得た。

8　出土遺物及び記録資料は、当埋蔵文化財調査事務所が一括して保管している。

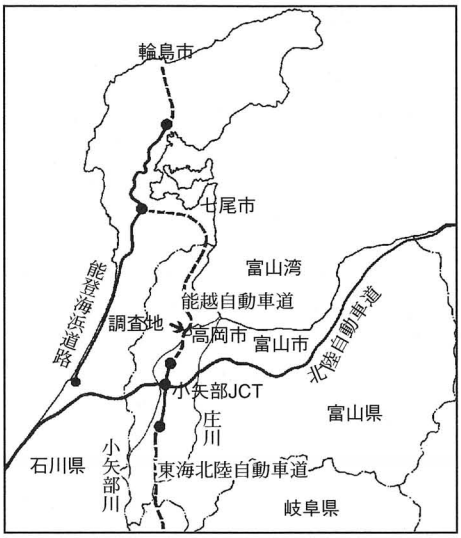
目　次

序
例言
目次
Ⅰ　位置と環境……1
　1　位置と環境……1
　2　周辺の遺跡……2
Ⅱ　調査の経緯……3
　1　調査の契機と既往の調査……3
　2　調査に至るまで……3
Ⅲ　調査の概要……5
　1　調査の方法……5
　2　調査の経過……5
　3　ＮＥＪ－10の調査……5
　　（1）　調査対象地……5
　　（2）　基本層序……5
　　（3）　トレンチの調査状況……6
　　（4）　出土遺物……9
　　（5）　小括……10
　4　ＮＥＪ－11の調査……11
　　（1）　調査対象地……11
　　（2）　基本層序……11
　　（3）　トレンチの調査状況……12
　　（4）　出土遺物……16
　　（5）　小括……17
Ⅳ　プラント・オパール分析……18
　1　はじめに……18
　2　試料……18
　3　分析法……20
　4　分析結果……20
　5　考察……20
　　（1）　稲作の可能性について……20
　　（2）　その他の農耕の可能性について…21
　6　まとめ……21
参考文献……22
Ⅴ　調査の成果と課題……31
　1　微地形と遺跡の立地……31
　2　須加村墾田地と遺跡……32
引用・参考文献……32
写真図版
報告書抄録

図・表目次

第１図　調査地の位置……1
第２図　調査対象地と周辺の遺跡……1
第１表　調査対象地と周辺の遺跡一覧表……2
第２表　既往の調査一覧……3
第３図　能越自動車道と遺跡の位置……4
第４図　ＮＥＪ－10基本層序模式図……5
第３表　ＮＥＪ－10基本層序観察表……6
第５図　ＮＥＪ－10トレンチの位置……7
第６図　ＮＥＪ－10遺構概略図……8
第７図　ＮＥＪ－10出土遺物……10
第８図　ＮＥＪ－11基本層序模式図……11
第４表　ＮＥＪ－11基本層序観察表……12
第９図　ＮＥＪ－11トレンチの位置……13
第10図　ＮＥＪ－11遺構概略図……15
第11図　ＮＥＪ－11出土遺物実測図……16
第５表　分析試料一覧……18
第12図　分析試料採取地点位置図……19
第６表　ＮＥＪ－11のプラント・オパール分析結果（１）……23
第７表　ＮＥＪ－11のプラント・オパール分析結果（２）……24
第13図　プラント・オパール分析結果（１）25
第14図　プラント・オパール分析結果（２）26
第15図　プラント・オパール分析結果（３）27
第16図　プラント・オパール分析結果（４）28
第17図　プラント・オパール分析結果（５）29
第８表　各地点における稲作跡の可能性　30
第18図　ＮＥＪ－10・ＮＥＪ－11周辺微地形図……31
第19図　ＮＥＪ－10・ＮＥＪ－11と須加村墾田地……32

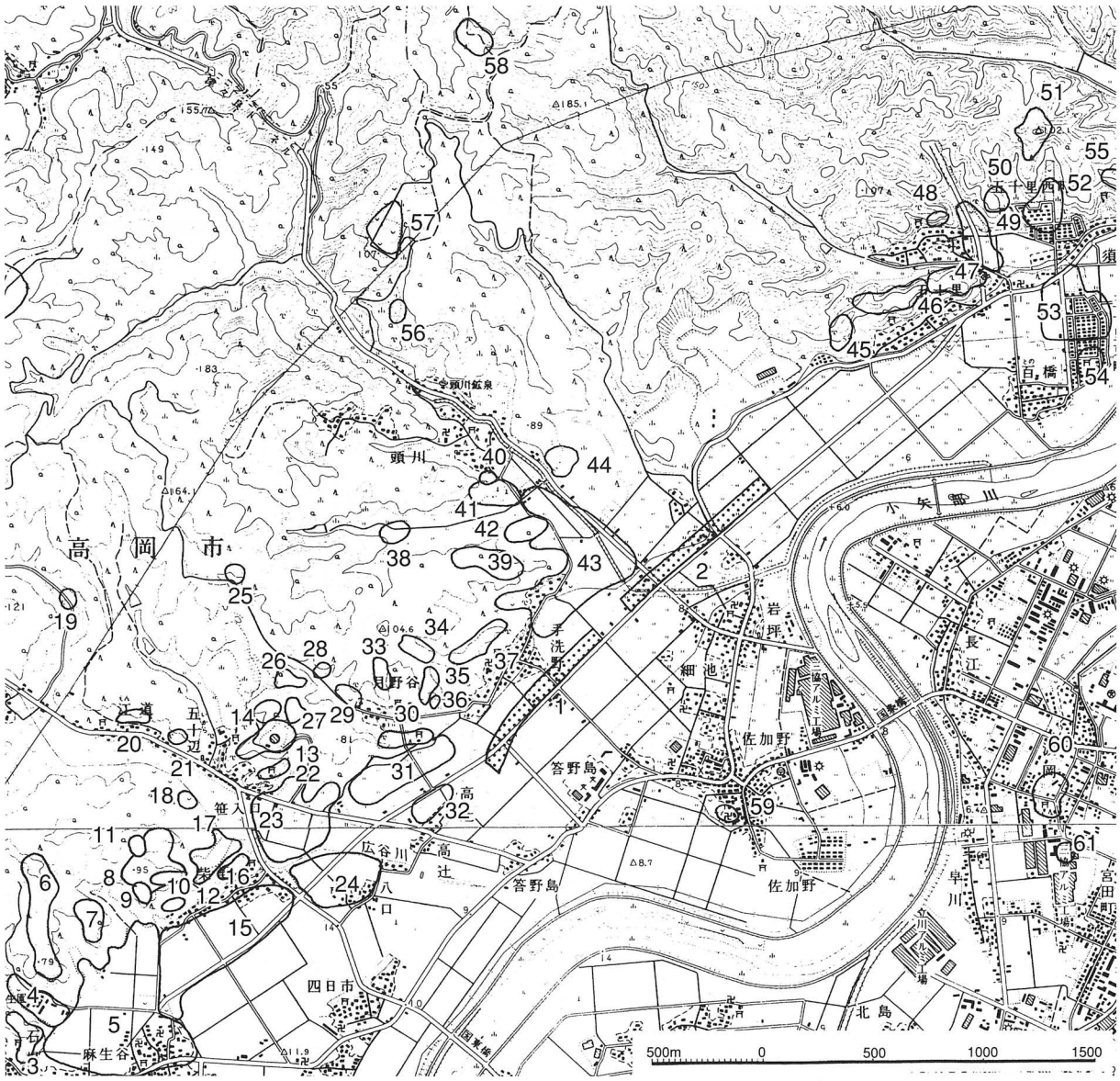
Ⅰ　位置と環境



第1図　調査地の位置

1　位置と地形（図版１・２）

ＮＥＪ－10・ＮＥＪ－11は能越自動車道路線内の高岡市国吉地内に確認された埋蔵文化財包蔵地である。高岡市は県西部に位置し、市域の西端は西山丘陵がありその東に小矢部川と庄川が北流し富山湾に注いでいる。国吉地区はこの西山丘陵と小矢部川に挟まれた部分にあたる。調査対象地は、そのほとんどが小矢部川低地と呼ばれる氾濫平野で一部旧河道と西山丘陵からのびる台地がある。小矢部川は砺波平野・射水平野などの穀倉地帯を流れるため物資輸送の動脈としての役割をはたしていた。しかし一方、国吉地区は小矢部川の度重なる洪水で損害も受けた。このことが昭和26年撮影の航空写真（図版２）で旧河道以外に幾筋の川跡の痕跡と思われる地割りが見られることでも容易に理解できる。現在は昭和40年代に施工されたほ場整備によりこの地割りは見られなくなった。



第2図　調査対象地と周辺の遺跡（〔県埋文センター1993〕をトレース改変）

2　周辺の遺跡（第２図・第１表）

調査対象地周辺の小矢部川左岸は第１図のとおり多くの遺跡が密集する地域である。時代は縄文時代から中世にいたる［大野編1985・山口1988］。地形的には丘陵と台地上に多く位置し、調査対象地の大半を占める低地では希薄な分布である。次に時代ごとに周辺の遺跡を見ておく。

弥生時代　間尽遺跡（43，旧頭川遺跡）はＮＥＪ－11西側の丘陵裾の台地上に位置し、東日本系の天王山式土器を多量に出土した［上野1974］特異な遺跡として著名である。

古墳時代　丘陵上に古墳・横穴墓が数多く存在する。古墳は調査地の近隣でも倉谷古墳群（37）・立山古墳群（30）・四十九古墳群（39）・安居山古墳群（42）等が立地する。横穴墓では頭川城ケ平横穴墓群（44）・江道横穴墓群（20）があり両横穴墓群とも発掘調査が行われた［高瀬1957，酒井他1983・1984］。集落は麻生谷新生園遺跡（４）で竪穴住居が発掘された［山口他1997］。

古代　遺跡は台地上を中心に分布する。麻生谷新生園遺跡（４）では石敷きの道路が検出され古代北陸道の一部と推定されている［山口他1998］。集落は麻生谷遺跡（５）・柴野遺跡（15）で発掘されている。麻生谷遺跡は、古代北陸道「川人駅」に関係するとされる［山口他1997］。遺跡以外でも、東大寺領荘園図にみられる「須加村墾田地」の比定地がＮＥＪ－11に含まれる。

中世　丘陵上・台地上に山城・寺院が立地する。調査地の隣接には安居山城跡（42）・笹八口砦跡（13）、釈迦堂遺跡（14、寺院）がある。調査地隣接の集落は手洗野に現在もある信光寺（県内最古の曹洞宗寺院）が1323年創建され［京谷編1966］、岩坪でも中世には岩坪保が成立したとされる。

近世　遺跡としての分布はない。しかし、北陸街道の脇往還として「氷見往来」が通り、佐加野には「佐加野駅」が置かれ重要な交通の要衝であった。

以上のように、当地域は永きに亘って、有力な経済基盤が存在し、交通の要衝地として位置づけられてきたといえる。しかし「須加村墾田地」を初めとして古代以前の低地部の利用状況は不明で、その解明は今後の課題である。

番号	名　称	県地図番号	種 別	時　代	番号	名　称	県地図番号	種 別	時　代
1	ＮＥＪ－10	202232	散布地		33	道ケ谷内Ⅲ古墳群	202063	古墳	古墳
2	ＮＥＪ－11	202233	散布地		34	道ケ谷内Ⅱ古墳群	202064	古墳	古墳
3	石堤柏堂古墳	202035	古墳	古墳	35	道ケ谷内Ⅰ古墳群	202065	古墳	古墳
4	麻生谷新生園遺跡	202036	集落	縄文・古墳～中世	36	道ケ谷内遺跡	202066	散布地	中世
5	麻生谷遺跡	202037	集落	古墳～中世	37	倉谷古墳群	202067	古墳	古墳
6	麻生谷殿谷内城跡	202038	山城	中世	38	滝ケ谷内Ⅱ遺跡	202068	散布地	奈良・平安？
7	麻生谷殿谷内古墳群	202039	古墳	古墳	39	四十九古墳群	202069	古墳	古墳
8	柴野城ケ平城跡	202040	山城	中世	40	頭川古墓跡	202070	墓	
9	柴野口割Ⅰ古墳群	202041	古墳	古墳	41	滝ケ谷内Ⅰ遺跡	202071	散布地	縄文・奈良～中世
10	柴野口割Ⅱ古墳群	202042	古墳	古墳	42	安居山古墳群・安居山城跡	202072	古墳・山城	古墳・中世
11	柴野口割Ⅲ古墳群	202043	古墳	古墳					
12	柴野口割Ⅳ古墳群	202044	古墳	古墳	43	間尽遺跡	202073	集落	弥生・古墳～中世
13	笹八口砦跡	202199	山城	中世	44	頭川城ケ平横穴墓群	202174	横穴	古墳
14	釈迦堂遺跡	202200	寺院	中世	45	板屋谷内Ｃ古墳群	202275	古墳	古墳
15	柴野遺跡	202045	散布地	古墳～中世	46	板屋谷内Ｂ古墳群	202076	古墳	古墳
16	柴野高の宮城跡	202046	山城	中世	47	板屋谷内Ａ古墳群	202077	古墳	古墳
17	柴野守善寺遺跡	202047	寺院	奈良～中世	48	五十里横穴墓	202078	横穴	古墳
18	柴野春日古墳群	202048	古墳	古墳	49	五十里西遺跡	202079	散布地	縄文・奈良～中世
19	境久寺遺跡	202049	散布地	中世	50	五十里道神社古墳群	202080	古墳・墓	古墳・中世？
20	江道横穴墓群	202050	横穴	古墳	51	五十里古墳群・五十里遺跡	202081	古墳・山城	古墳・中世
21	円通庵遺跡	202051	寺院	中世					
22	笹八口古墳群遺跡	202052	古墳	古墳	52	五十里道重遺跡	202082	散布地	奈良・平安
23	笹八口遺跡	202053	散布地	古墳～中世	53	須田藤の木遺跡	202083	集落	古墳・奈良
24	八口遺跡	202054	散布地	奈良～中世	54	百橋宮田遺跡	202084	散布地	縄文（後・晩）
25	月野谷石飛遺跡	202055	散布地	縄文	55	須田不動谷内古墳群	202085	古墳	古墳
26	釈迦堂古墳群	202056	古墳	古墳	56	頭川宮中遺跡	202031	散布地	縄文（中）
27	男撲古墳群	202057	古墳	古墳	57	頭川オスキノ原遺跡	202030	散布地	縄文（中）
28	月野谷千草遺跡	202058	散布地	弥生	58	神代テラヤシキ遺跡	205184	寺院	中世
29	月野谷大谷内遺跡	202059	散布地	古墳？	59	佐加野ラントウ遺跡	202207	散布地	中世
30	立山古墳群	202060	古墳	古墳	60	早川遺跡	202154	散布地	弥生～平安
31	宮田遺跡	202061	散布地	弥生・奈良～中世	61	浪岡遺跡	202153	散布地	弥生～平安
32	高辻遺跡	202062	散布地	奈良～中世					

第1表　調査対象と周辺の遺跡一覧表（番号は第2図に対応）

Ⅱ　調査の経緯

1　調査の契機と既往の調査（第３図・第２表）

能越自動車道は、富山県西部・能登地域と三大都市圏の高速交通体系の確立及び地域の活性化のため高規格幹線道路網計画の一環として、北陸自動車道・東海北陸自動車と小矢部ジャンクションで接続する路線として計画された。平成２年４月、この工事構想・計画が建設省から県教育委員会に照会された。これを受け、関係の建設省富山工事事務所・県教育委員会・小矢部市教育委員会で協議が行われ、小矢部市域の分布調査を行うことが決定された。また、平成４年度からは当調査事務所が建設省から委託を受け発掘調査を実施している。これ以降、能越道関係の調査は、第２表のとおり分布調査が県教育委員会、試掘調査が地元市教育委員会及び当財団、本発掘調査は当財団が主体となり平成２年度から継続して実施されている。

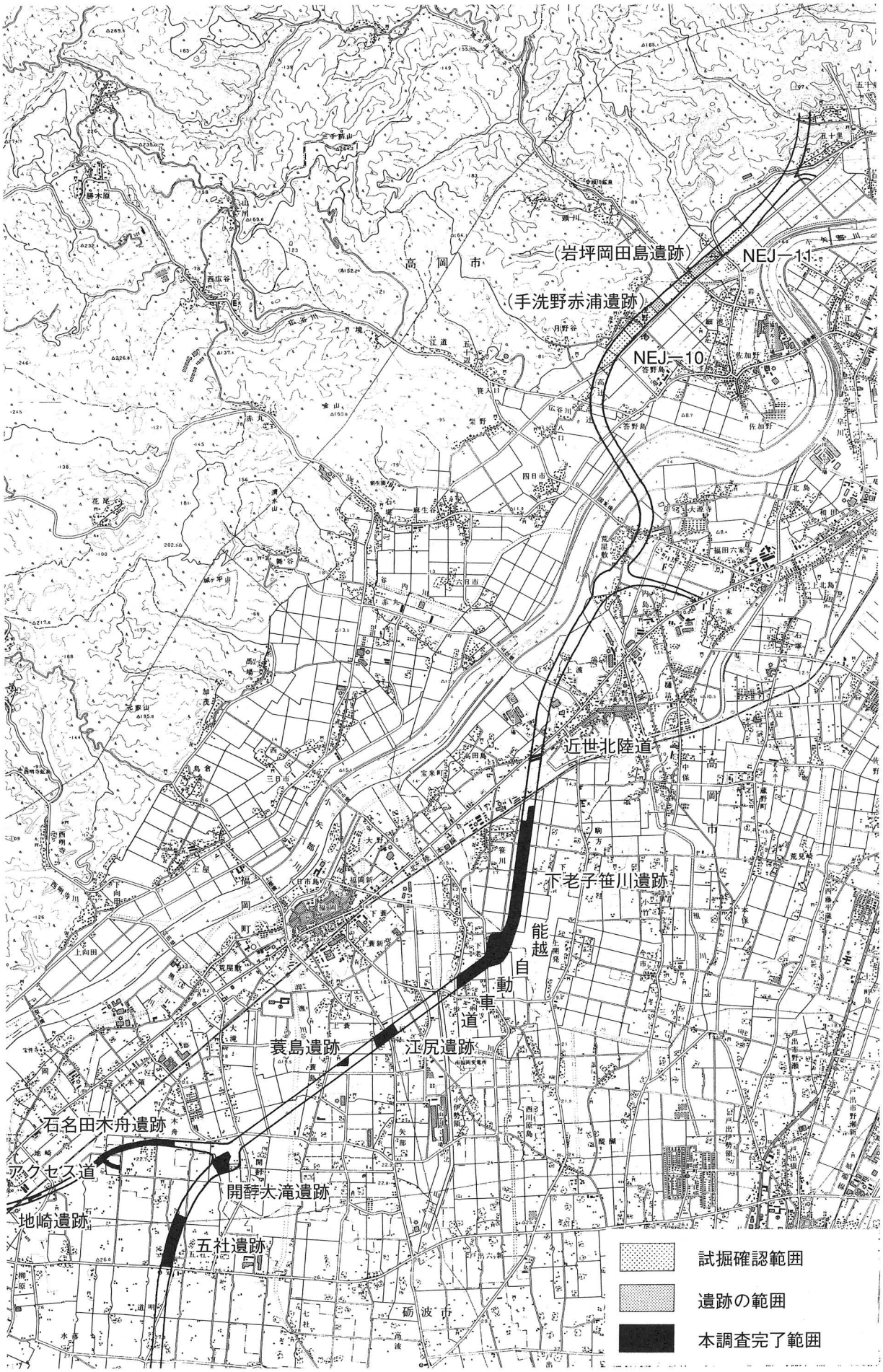
2　調査に至るまで

平成９年３月４日、県埋蔵文化財センターにより高岡ＩＣ～高岡北ＩＣ間の分布調査が実施された。その結果、３箇所の埋蔵文化財包蔵地が新たに確認され、それぞれＮＥＪ－10・ＮＥＪ－11・ＮＥＪ－12と設定された。

平成10年10月13日、建設省・高岡市から用地買収が完了したＮＥＪ－10・ＮＥＪ－11について試掘確認調査実施の要望が上げられた。同10月26日、関係の建設省富山工事事務所・県道路課・県教育委員会文化課・県埋蔵文化財センター・高岡市能越道対策課・当調査事務所で調査実施に関し協議を行い、今回の調査に至った。

年度	調査対象地	調査種類	調査主体	調査面積（m²）	調査期間	調査結果
平成２	小矢部市域（本線・アクセス道）	分布	県教委	408,000	4/17～4/18	ＮＥＪ－01～04，ＮＥＪ－Ａ－01・02を設定
	ＮＥＪ－01	試掘確認	小矢部市教委	271（対象 5,600）	11/1～11/2	遺跡なし
	ＮＥＪ－02			237（対象 8,000）	11/1～11/5	遺跡なし
	ＮＥＪ－03			1,184（対象16,800）	11/2～11/8	遺跡なし
	ＮＥＪ－04			2,977（対象67,000）	11/6～12/5	五社遺跡を設定
	ＮＥＪ－Ａ－01			1,462（対象25,200）	11/27～12/13	石名田遺跡を設定
	ＮＥＪ－Ａ－02			1,049（対象19,800）	11/30～12/21	地崎遺跡を設定
平成３	福岡町域（本線・アクセス道）	分布	県教委	290,000	12/3	ＮＥＪ－05～07，ＮＥＪ－Ａ－03・04を設定
平成４	ＮＥＪ－Ａ－03	試掘確認	財団	2,100（対象32,600）	1/16～7/1	石名田遺跡に接続、石名田木舟遺跡と設定
	ＮＥＪ－Ａ－04			900（対象19,400）	6/15～6/16	遺跡なし
	ＮＥＪ－05			4,600（対象78,400）	6/19～7/7	開碎大滝遺跡を設定
	ＮＥＪ－06			2,900（対象72,500）	6/17～6/29	江尻遺跡・蓑島遺跡を設定
	ＮＥＪ－07			4,900（対象74,800）	6/16～17	下老子遺跡を設定
	五社遺跡	本発掘		38,100	7/20～12/28	中世と古代の集落を調査
	高岡市笹川地内（本線）	分布	県教委	76,800	3/22	ＮＥＪ－08を設定
平成５	五社遺跡	本発掘	財団	6,209	4/19～12/8	古墳時代と古代の集落の調査
	地崎遺跡			1,636	5/11～12/15	近世の集落調査
	開碎大滝遺跡			25,163	5/19～12/21	中近世の集落を調査
	石名田木舟遺跡			14,493	5/11～12/15	古代と中世の集落を調査
	高岡市上渡地内ほか（本線）	分布	県教委	67,200	3/30	近世北陸道
平成６	石名田木舟遺跡	本発掘	財団	40,781	5/18～1/19	古代と中世の集落を調査
	五社遺跡			6,990	5/18～10/25	古代と中世の集落を調査
	ＮＥＪ－08	試掘確認	財団	3,800（対象76,800）	6/6～7/4	下老子遺跡に接続、下老子笹川遺跡を設定
平成７	石名田木舟遺跡	本発掘	財団	2,050	5/17～7/25	中近世の集落を調査
	蓑島遺跡			3,476	5/18～8/11	縄文・古墳、近世の集落
	江尻遺跡			10,602	5/19～12/18	弥生・中近世と近代の集落
	下老子笹川遺跡			9,994	5/25～12/11	近世の集落を調査
平成８	下老子笹川遺跡	本発掘	財団	34,700	5/13～12/24	弥生・中近世の集落を調査
	ＨＳ－01	試掘確認	高岡市教委	8,628（対象78,000）	7/15～10/14	遺跡なし
平成９	下老子笹川遺跡	本発掘	財団	52,730	5/13～12/19	縄文と弥生から近世の集落を調査
	高岡市荒屋敷～五十里地区（本線）	分布	県教委	230,000	3/4	ＮＥＪ－10・11・12を設定
平成10	下老子笹川遺跡	本発掘	財団	33,872	5/26～11/30	縄文と古代・中近世の集落の調査
	近世北陸道	試掘確認		111（対象2,000）	6/1	近世北陸道を確認
	近世北陸道	本発掘		489	6/10～6/30	近世北陸道の溝を調査

第2表　既往の調査一覧



第3図　能越自動車道と遺跡の位置

Ⅲ　調査の概要

1　調査の方法

調査は幅約1.8ｍ・長さ約5～50ｍの試掘溝（以下トレンチ・Ｔとする）をＮＥＪ－10で56箇所、ＮＥＪ－11で62箇所設定した。それを重機（バックホウ）及び人力により表土から地山面または遺構面と推定される面まで掘り下げ、遺構および遺物の遺存状況を確認した。また部分的に下層の状況の確認のため深掘りを行った。各トレンチ掘削作業終了後、トレンチの平面概略図（１：100）と断面図（垂直１：20、水平１：100）の図化作業及び写真撮影作業を実施した。

東大寺領荘園「須加村墾田地」比定箇所が含まれるＮＥＪ－11では水田立地が想定されることから、プラントオパール分析を28地点で実施した。分析の詳細な結果は「Ⅳ」に記述してある。

2　調査の経過

調査期間は、ＮＥＪ－10が平成10年11月24日から同年12月８日、ＮＥＪ－11が平成10年11月９日から同年12月12日である。

調査の主な経過は次の通りである。11月４日、全トレンチ設定。11月６日、全トレンチ現況高検査。11月９日、ＮＥＪ－11調査開始。11月24日、ＮＥＪ－10調査開始。12月８日、ＮＥＪ－10調査終了。12月10日、ＮＥＪ－11プラントオパール分析資料採取。12月12日、ＮＥＪ－11調査終了。12月15日、完了検査実施。　（岡本）

3　ＮＥＪ－10の調査

（１）調査対象地

調査対象地は高岡市国吉(手洗野)地内に位置し、延長約760ｍ・幅約60ｍ、面積約45,600㎡である。

西側約300ｍに西山丘陵、東側約800ｍに小矢部川が存在する。現況は水田・畑地・宅地である。現在の標高は南で約８ｍ、北で約７ｍとなっており、北に向かって低くなっていくことがわかる。また40トレンチ周辺は微高地になっている。

試掘トレンチは南側より１トレンチとし、計56トレンチを設定した。　（中野）

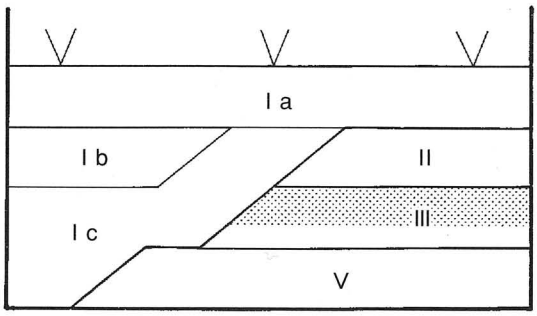
（２）基本層序　（第４図・第３表）

Ⅰａ層は現代の耕作土である。ほぼ全域に広がり、厚さは５～50cmである。

Ⅰｂ層は現代の水田床土である。ほぼ全域に広がり、厚さは22～80cmである。炭粒が混入する。

Ⅰｃ層は近世以降の旧河川堆積土で、主に灰色もしくは暗黄灰色粘土質ロームなどに灰色の砂・炭粒が混入していた。Ｔ１からＴ52に分布し、厚さは浅いところ（Ｔ41～Ｔ52）で20～50cm、深いところ（Ｔ１～Ｔ40）では1.2ｍ以上になる。

Ⅱ層は中世の遺物包含層である。主に褐灰色シルト、暗灰黄色粘土質ロームで、炭粒が混入していた。Ｔ53からＴ56に分布し、厚さは40～50cmである。この層の中ほどで、噴砂が水平方向に堆積するところがある。



第４図　ＮＥＪ－10基本層序模式図

Ⅲ層は中世の遺構検出面である。主に灰色砂質ロームで、Ⅱ層と同じくＴ53からＴ56に分布し、深さは40cmである。

Ⅴ層はⅠｃ層の浅いところの直下にあり、Ｔ41からＴ48が灰色シルト質ローム、Ｔ48からＴ52が礫である。　（深堀）

（3）トレンチの調査状況

T 1　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅰc層。遺構・遺物なし。

T 2　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅰc層。Ⅰb層にコンクリートブロックが入っている。遺構・遺物なし。

T 3　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅰc層。遺構・遺物なし。

T 4　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅰc層。遺構・遺物なし。

T 5　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅰc層。Ⅰb層にコンクリートブロックが入っている。遺構・遺物なし。

T 6　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅰc層。遺構・遺物なし。

T 7　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅰc層。遺構・遺物なし。

T 8　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅰc層。遺構・遺物なし。

T 9　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅰc層。遺構・遺物なし。

T 10　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅰc層。遺構・遺物なし。

T 11　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅰc層。遺構・遺物なし。

T 12　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅰc層。遺構・遺物なし。

T 13　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅰc層。遺構・遺物なし。

T 14　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅰc層。Ⅰb層の間から近代の溝を検出した。

T 15　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅰc層。Ⅰb層の間から近代の溝を検出した。

T 16　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅰc層。遺構なし。Ⅰb層から近代陶器が出土。

T 17　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅰc層。遺構なし。Ⅰb層から近代磁器、Ⅰc層から越中瀬戸が出土。

T 18　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅰc層。遺構なし。Ⅰb層から近代陶器が出土。

T 19　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅰc層。遺構・遺物なし。

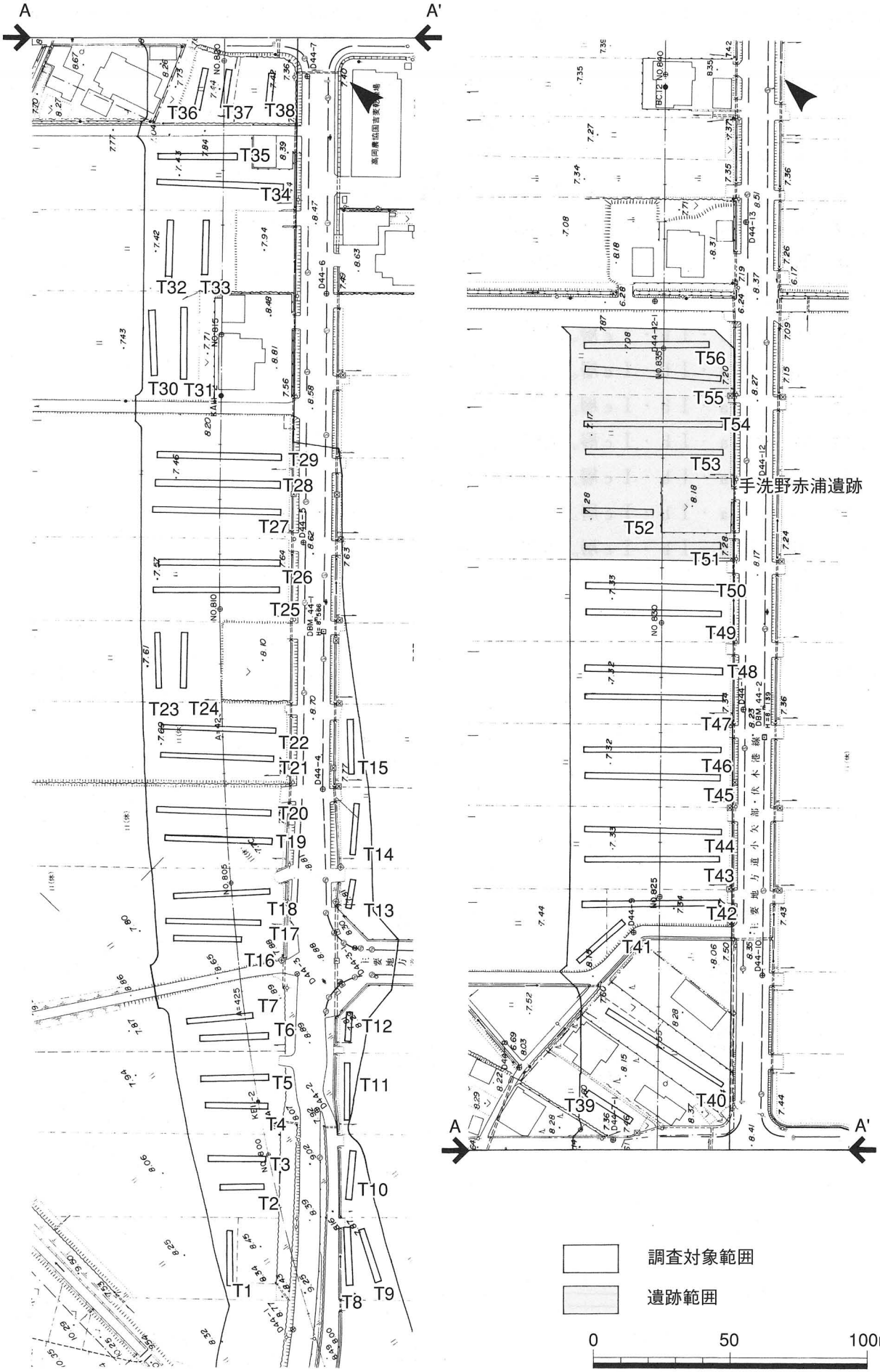
T 20　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅰc層。Ⅰb層の間から近代の溝を検出した。

T 21　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅰc層。遺構なし。Ⅰc層から珠洲が出土。

層序	分布	土色・質			性格
Ⅰa	全域	暗オリーブ褐色	(2.5Y3/3)	粘土質ローム	現代耕作土
		暗灰黄色	(2.5Y4/2)	シルト	
		同	(2.5Y5/2,2.5Y4/2)	粘土質ローム	
		黄灰色	(2.5Y4/1)	ローム	
		同	(2.5Y5/1)	シルト	
		同	(2.5Y5/1,2.5Y4/1)	粘土質ローム	
		オリーブ褐色	(2.5Y4/3)	シルト	
		同	(2.5Y4/3)	粘土質ローム	
		褐灰色	(10YR4/1)	シルト	
		黒褐色	(2.5Y3/2)	シルト	
		灰色	(5Y4/1)	シルト質ローム	
		灰黄褐色	(10YR4/2)	シルト	
Ⅰb	T1～T40	暗灰黄色	(2.5Y5/2,2.5Y4/2)	シルト	現代水田床土
		黄灰色	(2.5Y6/1,2.5Y4/1)	粘土質ローム	
		オリーブ黒色	(5Y3/1,5Y2/2)	シルト質ローム	
		同	(7.5Y3/2,5Y3/2)	シルト	
		同	(5Y3/2)	粘土質ローム	
		黒褐色	(2.5Y3/2)	シルト質ローム	
		灰色	(7.5Y4/1,5Y6/1,5Y4/1)	シルト質ローム	
		同	(5Y5/1,5Y4/1,10Y4/1)	シルト	
		同	(5Y5/1,5Y4/1)	粘土質ローム	
		同	(N5/1)	粘土	
Ⅰc	T1～T52	暗オリーブ灰色	(2.5GY4/1)	砂	旧河川堆積土
		暗灰黄色	(2.5Y5/2,2.5Y4/2)	シルト	
		同	(2.5Y5/2,2.5Y4/2)	粘土質ローム	
		黄灰色	(2.5Y5/1,2.5Y4/1)	砂質ローム	
		同	(2.5Y5/1,2.5Y4/1)	シルト	
		同	(2.5Y5/1,2.5Y4/1)	粘土質ローム	
		オリーブ褐色	(2.5Y4/3)	粘土質ローム	
		オリーブ黒色	(5Y3/1)	シルト	
		同	(10Y3/1,5Y3/2)	粘土質ローム	
		灰色	(7.5Y4/1,5Y6/1,5Y4/1,10Y5/1,10Y4/1)	砂	
		同	(7.5Y5/1,7.5Y4/1,5Y5/1,5Y4/1,10Y5/1)	砂質ローム	
		同	(7.5Y5/1)	シルト質ローム	
		同	(7.5Y5/1,5Y5/1,5Y4/1,10Y5/1)	シルト	
		同	(7.5Y5/1,7.5Y4/1,5Y5/1,5Y4/1)	粘土質ローム	
		灰黄褐色	(10YR5/2,10YR4/2)	粘土質ローム	
		灰オリーブ色	(5Y4/2)	シルト	
		同	(5Y5/2,5Y4/2)	粘土質ローム	
		灰褐色	(7.5YR5/2)	粘土質ローム	

層序	分布	土色・質			性格
Ⅱ	T53～T56	暗灰黄色	(2.5Y4/2)	砂質ローム	中世包含層
		同	(2.5Y4/2)	シルト	
		同	(2.5Y4/2)	粘土質ローム	
		黄灰色	(2.5Y5/1,2.5Y4/1)	シルト	
		同	(2.5Y4/1)	粘土質ローム	
		褐灰色	(10YR4/1)	ローム	
		同	(10YR4/1)	シルト	
		同	(10YR4/1)	粘土質ローム	
		灰色	(5Y5/1)	粘土	
Ⅲ	T53～T56	黄灰色	(2.5Y5/1)	砂	中世遺構面
		灰色	(5Y6/1)	砂	
		同	(5Y5/1,5Y4/1)	砂質ローム	
		同	(5Y4/1)	シルト質ローム	
		灰オリーブ色	(5Y4/2)	砂	
Ⅴ	T41～T52	礫			地山
		灰色	(5Y5/1)	砂	
		同	(5Y5/1,5Y4/1)	砂質ローム	
		同	(5Y5/1)	シルト	

第3表　ＮＥＪ－10基本層序観察表



第5図　ＮＥＪ－10トレンチの位置（1：2,000）

T 22　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅰｃ層。遺構なし。Ⅰｂ層から近世陶磁器・珠洲、Ⅰｃ層から土師器が出土。

T 23　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅰｃ層。遺構・遺物なし。

T 24　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅰｃ層。遺構・遺物なし。

T 25　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅰｃ層。遺構・遺物なし。

T 26　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅰｃ層。遺構なし。Ⅰａ層から越中瀬戸が出土。

T 27　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅰｃ層。遺構なし。暗渠の埋土から近世陶磁器が出土。

T 28　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅰｃ層。遺構・遺物なし。

T 29　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅰｃ層。遺構・遺物なし。

T 30　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅰｃ層。遺構・遺物なし。

T 31　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅰｃ層。遺構・遺物なし。

T 32　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅰｃ層。遺構・遺物なし。

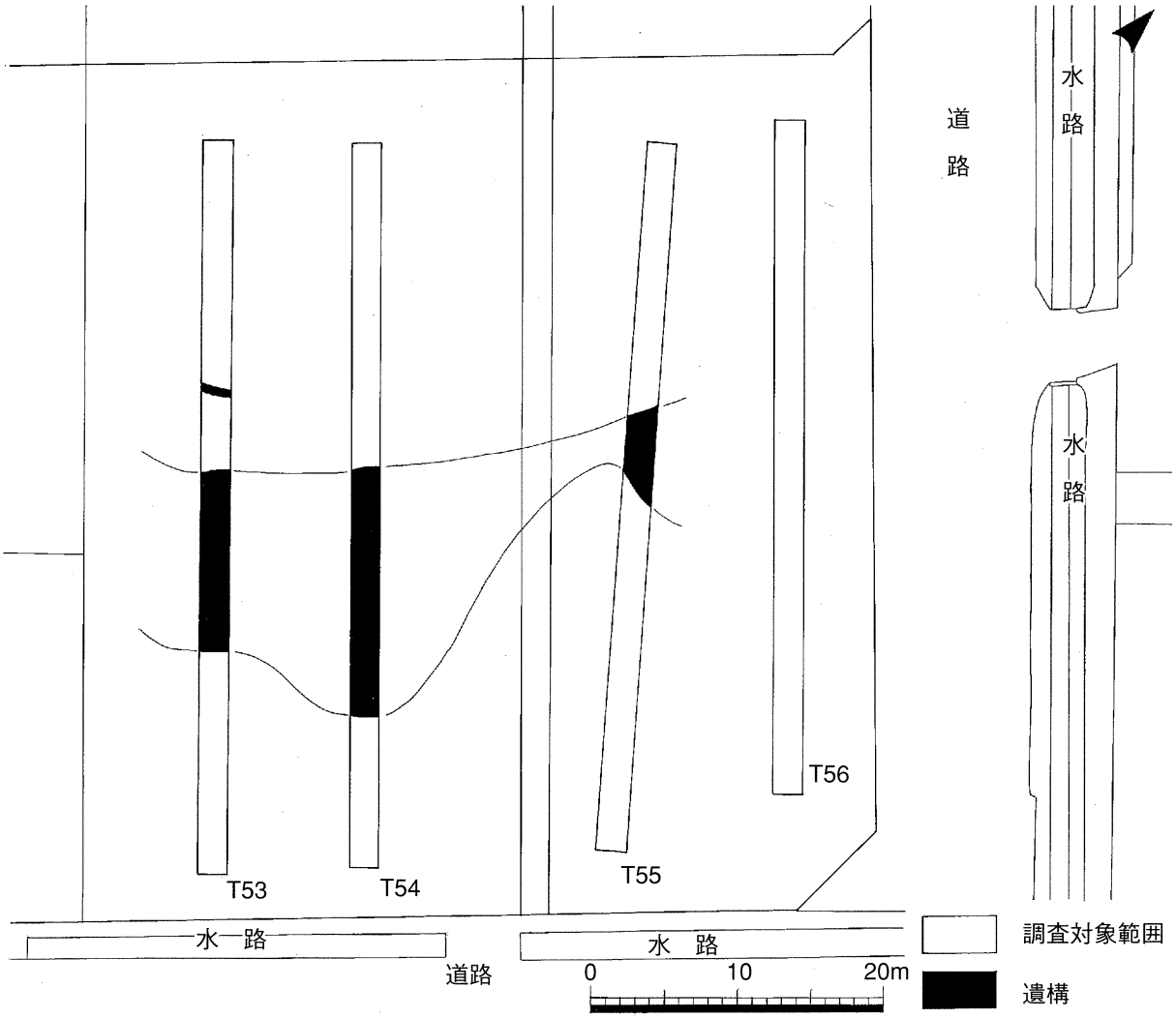
T 33　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅰｃ層。遺構なし。Ⅰ層から近世陶器が出土。

T 34　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅰｃ層。遺構・遺物なし。

T 35　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅰｃ層。遺構なし。Ⅰ層から肥前系磁器が出土。

T 36　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅰｃ層。遺構・遺物なし。

T 37　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅰｃ層。遺構・遺物なし。



第6図　ＮＥＪ－10遺構概略図（1：500）

T 38　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅰc層。遺構・遺物なし。

T 39　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅰc層。遺構・遺物なし。

T 40　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅰc層。遺構・遺物なし。

T 41　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅰc・Ⅴ層。埋没旧河道の肩を確認。遺構・遺物なし。

T 42　層序はⅠa・Ⅰc・Ⅴ層。２本の埋没旧河道の肩を確認。遺構なし。Ⅰc層から珠洲・土師器、排土から須恵器が出土。

T 43　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅰc・Ⅴ層。２本の埋没旧河道の肩を確認。遺構・遺物なし。

T 44　層序はⅠa・Ⅰc・Ⅴ層。２本の埋没旧河道の肩を確認。遺構・遺物なし。

T 45　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅰc層。遺構なし。Ⅰc層から土師器が出土。

T 46　層序はⅠa・Ⅰc層。遺構なし。Ⅰc層から土師器が出土。

T 47　層序はⅠa・Ⅰc・Ⅴ層。埋没旧河道の肩を確認。遺構なし。Ⅰc層から土師器が出土。

T 48　層序はⅠa・Ⅰc・Ⅴ層（礫）。埋没旧河道の肩を確認。遺構なし。Ⅰ層から近世陶磁器が出土。

T 49　層序はⅠa・Ⅰc・Ⅴ層（礫）。埋没旧河道の肩を確認。遺構・遺物なし。

T 50　層序はⅠa・Ⅰc・Ⅴ層（礫）。埋没旧河道の肩を確認。遺構なし。Ⅰ層から越中瀬戸が出土。

T 51　層序はⅠa・Ⅰc・Ⅴ層（礫）。遺構・遺物なし。

T 52　層序はⅠa・Ⅰc・Ⅴ層（礫）。遺構・遺物なし。

T 53　層序はⅠa・Ⅱ・Ⅲ層。Ⅰa層に撹乱がある。Ⅲ層面で溝２条を検出。一条は東西に流れる幅約0.5ｍの溝で中世土師器２枚が隣接して出土。もう一条は南北に流れる幅約12.5ｍの溝でT 54・55の溝とつながる。Ⅰa層から近世陶磁器、Ⅱ層から中世土師器・珠洲・銅銭が出土。銅銭は赤錆のため枚数・種類が確認できなかったが、周囲の土が黒く腐食しており、容器に納められていたものと考えられる。

T 54　層序はⅠ・Ⅱ・Ⅲ層。Ⅲ層面より幅約17ｍの溝１条を検出。T 53・55の溝とつながる。Ⅱ層から中世土師器・珠洲・土錘が出土。

T 55　層序はⅠ・Ⅱ・Ⅲ層。Ⅲ層面より幅約７ｍの溝１条を検出。T 53・54の溝とつながる。溝直上から銅銭10枚が出土。T 53の銅銭の出土状況と同様で、容器に納められていたものと考えられる。

T 56　層序はⅠ・Ⅱ・Ⅲ層。Ⅱ層に撹乱がある。遺構・遺物なし。　（深堀）

（４）出土遺物　（第７図・写真図版６）

遺物の出土量は全体的に少なく、図化可能な遺物の多くがT 52～55で出土しており、埋没旧河道であるT１～50での出土はあまりない。また、包含層（Ⅱ層）・遺構内からの出土は少なく、耕作土（Ⅰa・b層）・旧河川堆積土（Ⅰc層）からの出土が多い。ほとんどが近世（１～４）・中世（５～17）に属する遺物で、わずかに古代のものが出土している。

近世　１・２は肥前陶器で陶胎染付椀である。時期は17世紀後半から18世紀にかけてのものである〔大橋1988〕。１は二次被熱を受けて釉薬がとんでいる。１はT 14、２はT 29の包含層より出土。

３・４は越中瀬戸である。３は天目茶椀で内外面に鉄釉が施されている。高台は削り出しとなる。T 17の包含層より出土。４はⅢで、口縁部内外面に灰釉が施される。口径13.6cmを計る。T 50の包含層出土。

その他、肥前陶磁器、越中丸山などや時期不明の陶磁器が少量出土している。

中世　５～９は中世土師器である。５～７はロクロ成形で、13世紀後半から14世紀頃〔越前1996〕のものと考えられる。５は口径9.9cm、器高1.95cm、底径5.15cmを計る。６は口径10.2cm、器高２

cm、底径6.9cmを計る。７は口径10cm、器高2.2cm、底径4.65cmを計る。ともに体部は丸みを帯びて立ち上がり、底部には回転糸切り痕がある。Ｔ53よりほぼ完形で出土しており、５は包含層、６・７は遺構内より隣接して出土した。８・９は非ロクロ成形で、13～14世紀頃〔越前1996〕のものと考えられる。８は口径8.8cmを計り、調整は磨滅が甚だしく不明である。Ｔ53の包含層より出土。９は口径11.8cmを計り、調整は口縁部にヨコナデ、内面見込みに一方向のナデが施される。Ｔ54の包含層より出土。

10は珠洲の甕である。Ｔ54の包含層より出土。珠洲Ⅲ・Ⅳ期（13世紀中頃から14世紀後半）〔吉岡1994〕の時期に属する。

11は土錘の破片である。Ｔ54の包含層より出土。

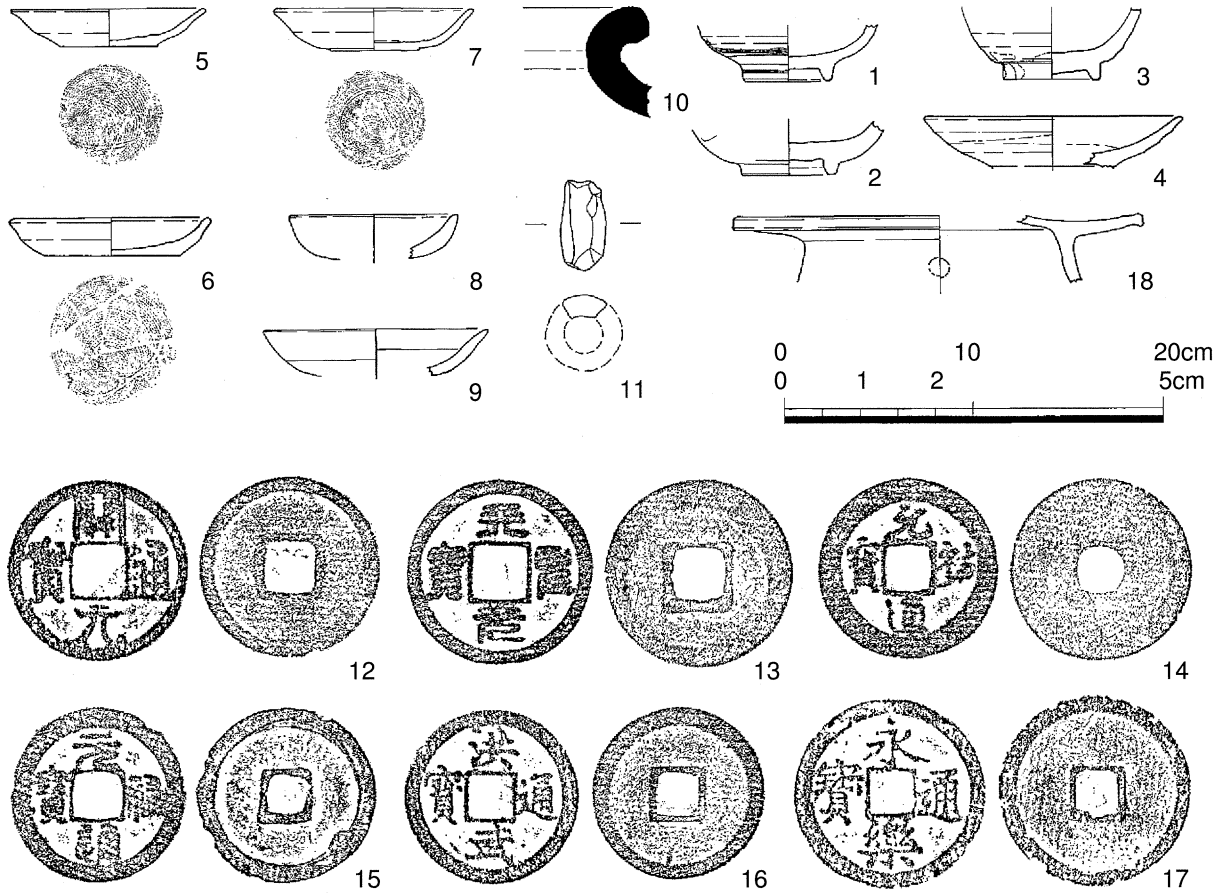
12～17は銅銭である。Ｔ55の遺構直上より出土。合計10枚（開元通寶１・天聖通寶１・元祐通寶３・洪武通寶２・永楽通寶２・判読不能１）が容器に納められ、一括で出土している。12は開元通寶（唐・621年初鋳）である。13は天聖元寶（北宋・1023年初鋳）の篆書である。14・15は元祐通寶（北宋・1086年初鋳）で、14は行書、15は篆書である。16は洪武通寶（明・1368年初鋳）である。17は永楽通寶（明・1408年初鋳）である〔永井1994〕。すべて背面は無文である。

18は土師器の台付皿もしくは盤になる。口径は21.2cmを計る。時期は不明。Ｔ47の包含層より出土。

その他、古代では須恵器の体部破片が１点のみ出土しているが、器種は不明である。　（平井）

（５）小括

Ｔ１～50は埋没旧河道となり、Ｔ41～44、Ｔ47～50で河道の肩を確認した。地表から最大２ｍ掘り下げても底面の確認はできなかった。また、試掘調査対象地の北側は標高が低く、この部分も埋没旧河道になると考えられる。



第7図　ＮＥＪ－10出土遺物実測図（1～11・18　1：4，12～17　1：1）

遺構はＴ53～55にかけて幅約７～17ｍの溝１条と、Ｔ53で幅約0.5ｍの溝１条をⅢ層上面で検出した。

遺物は主に中・近世に属するものが出土している。出土量は全体的に少ないが、Ｔ50～55から中世に属するものが比較的多く出土している。ほとんどが包含層（Ⅱ層）の出土となるが、遺構内からの出土は２枚の中世土師器（13世紀後半から14世紀）がある。

以上、出土土器・遺構の検出状況から遺跡は、中世の集落の縁辺部に当たると考えられる。遺跡の時期は包含層・遺構内出土の土器から13世紀から15世紀頃と推定できる。遺跡範囲はＴ51～56を含む２本の埋没旧河道に挟まれた部分である。延長約84ｍ・幅60ｍの約5,040㎡となる。遺跡の名称はＮＥＪ－10を改め、付近の字名を採り新規に手洗野赤浦遺跡とした。（平井）

４　ＮＥＪ－11の調査

（１）調査対象地

調査対象地は高岡市国吉（岩坪）地内に位置し、延長約780ｍ・幅約60ｍ、面積約46,800㎡である。西側約500ｍに西山丘陵、東側約700ｍに小矢部川が存在する。ＮＥＪ－10の北端からは約175ｍ離れる。東大寺領荘園「須加村墾田地」比定箇所が含まれる。現況は水田・畑地である。現在の標高は南で約7.6ｍ、北で約5.6ｍとなる。42トレンチ以北は大きく下がり、南側との比高差は約２ｍとなる。また中央部は段丘が張り出し、標高約９ｍ、東側水田面との比高差は約1.5ｍである。

試掘トレンチは南側より１トレンチとし、計62トレンチを設定した。（中野）

（２）基本層序　（第８図・第４表）

Ⅰａ層は現代の耕作土である。ほぼ全域に広がり、厚さは８～25cmである。

Ⅰｂ層は現代の水田床土である。ほぼ全域に広がり、厚さは10～85cmである。

Ⅰｃ層は近世以降の旧河川堆積土である。Ｔ１からＴ11、Ｔ13・14に分布し、厚さは深いところで155cm以上である。Ｔ11～15では、埋没旧河道の肩を検出している。

Ⅱａ層は無遺物層である。Ｔ44からＴ62に分布し、厚さは15～30cmである。この層の中ほどで、噴砂が水平方向に堆積するところがある。

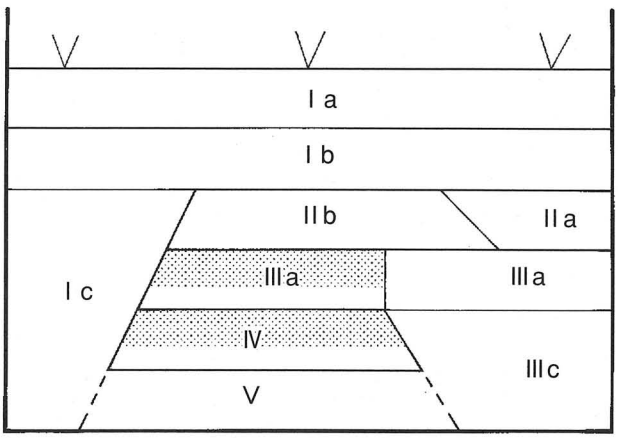
Ⅱｂ層は中世の遺物包含層である。主に灰色粘土質ロームで炭粒が混入している。Ｔ12からＴ43にかけて分布し、厚さは10～42cmである。

Ⅲａ層上面は中世の遺構検出面である。黄灰色もしくは暗灰黄色粘土質ロームで、炭粒が混入し、植栽痕が観察できた。また、この層は古代の遺物包含層でもある。Ｔ17からＴ35にかけて分布し、厚さは10～30cmである。

Ⅲｂ層は無遺物層である。灰色シルトで、植栽痕が観察できた。Ｔ36からＴ53にかけて分布し、厚さは20～65cmである。この層の上面で、噴砂が水平方向に堆積するところがある。

Ⅲｃ層もⅠｃ層同様に旧河川堆積土で、Ｔ42からＴ62まで分布し、厚さは60cm以上である。

Ⅳ層は古代の遺構検出面である。暗灰黄色シルトもしくは灰黄色粘土質ロームで、Ｔ11からＴ34にかけて分布しており、厚さは15～50cmである。



第8図　ＮＥＪ－11基本層序模式図

Ⅴ層は地山で、主にオリーブ灰色砂である。Ｔ12からＴ34にかけて分布している。　　（深堀）

（３）トレンチの調査状況

Ｔ１　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅰｃ層。遺構・遺物なし。

Ｔ２　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅰｃ層。遺構なし。Ⅰｂ層から近世陶磁器、Ⅰｃ層から中世土師器が出土。

Ｔ３　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅰｃ層。遺構なし。Ⅰｃ層から中世土師器が出土。

Ｔ４　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅰｃ層。遺構なし。Ⅰａ層と排土から近世陶磁器が出土。

Ｔ５　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅰｃ層。遺構なし。Ⅰｃ層から近世陶磁器・中世土師器が出土。

Ｔ６　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅰｃ層。遺構なし。Ⅰｂ層から弥生土器、Ⅰｃ層から弥生土器・土師器が出土。

Ｔ７　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅰｃ層。遺構なし。Ⅰｃ層から近世陶磁器が出土。

Ｔ８　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅰｃ層。遺構なし。Ⅰｃ層から肥前系磁器が出土。

Ｔ９　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅰｃ層。遺構なし。Ⅰｃ層から土師器が出土。

Ｔ10　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅰｃ層。遺構なし。Ⅰｃ層から土師器が出土。

Ｔ11　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅱｂ・Ⅳ層。Ⅳ層面で埋没旧河道の肩を検出する。遺構・遺物なし。

Ｔ12　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅱｂ・Ⅳ層。遺構・遺物なし。

Ｔ13　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅱｂ・Ⅳ層。Ⅳ層面で埋没旧河道の肩を検出する。遺構・遺物なし。

Ｔ14　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅱｂ・Ⅳ層。Ⅳ層面で埋没旧河道の肩を検出する。遺構・遺物なし。

Ｔ15　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅱｂ・Ⅳ層。Ⅳ層面で埋没旧河道の肩を検出する。遺構・遺物なし。

Ｔ16　層序はⅠａ・Ⅰｂ層。遺構・遺物なし。

Ｔ17　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅱｂ・Ⅲａ・Ⅳ層。遺構なし。Ⅰｂ層から土師器が出土。

Ｔ18　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅱｂ・Ⅲａ・Ⅳ層。深掘り部分からⅤ層を確認した。遺構なし。Ⅲａ層から古代の土師器が出土。

Ｔ19　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅱｂ・Ⅲａ・Ⅳ層。遺構なし。Ⅲａ層から古代の土師器が出土。

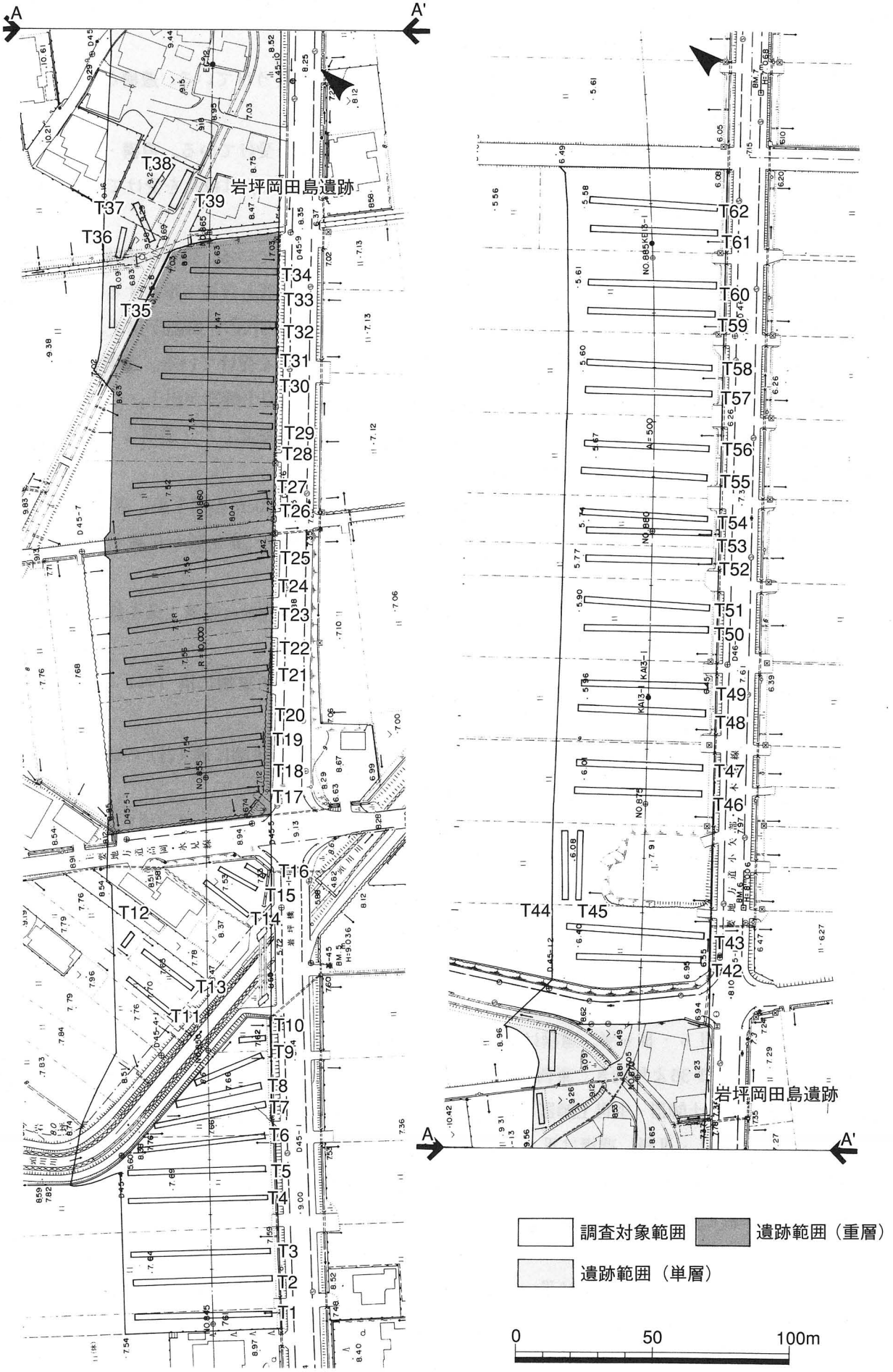
Ｔ20　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅱｂ・Ⅲａ・Ⅳ層。深掘り部分からⅤ層を確認した。遺構なし。Ⅱｂ層から古代の土師器が出土。

Ｔ21　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅲａ・Ⅳ層。遺構なし。Ⅰｂ層とⅢａ層から古代の土師器が出土。

層序	分布	土色・質			性格
Ⅰａ	全域	明黄褐色	(10YR6/6)	シルト	現代
		灰色	(5Y4/1)	砂質ローム	耕作土
		同	(5Y4/1,5Y5/1)	シルト	
		オリーブ黒色	(5Y3/2)	シルト	
		黄灰色	(2.5Y4/1)	シルト質ローム	
		同	(2.5Y4/1)	シルト	
		暗灰黄色	(2.5Y4/2)	砂質ローム	
		同	(2.5Y4/2)	シルト	
		同	(2.5Y4/2)	粘土質ローム	
Ⅰｂ	T1～T34	灰色	(7.5Y5/1)	砂質ローム	現代
		同	(10Y4/1,5Y5/1,7.5Y4/1)	シルト質ローム	水田床土
	T42～T62	同	(5Y4/1,5Y5/1,7.5Y4/1)	シルト	
		同	(7.5Y4/1,7.5Y5/1,10Y4/1,5Y4/1)	粘土質ローム	
		橙色	(7.5YR6/6)	シルト	
		黒褐色	(2.5Y3/1,2.5Y3/2)	シルト	
		同	(2.5Y3/1)	粘土質ローム	
		黄灰色	(2.5Y5/1)	砂	
		同	(2.5Y4/1)	シルト	
		同	(2.5Y4/1)	粘土質ローム	
		黄褐色	(2.5Y5/3)	砂質ローム	
		同	(2.5Y5/3)	シルト質ローム	
		暗灰黄色	(2.5Y5/2)	砂質ローム	
		同	(2.5Y4/2)	シルト	
		同	(2.5Y4/2)	粘土質ローム	
Ⅰｃ	T1～T11	灰色	(10Y4/1,10Y5/1)	砂	旧河川
		同	(7.5Y4/1)	ローム	堆積土
	T13・T14	同	(5Y4/1)	粘土	
		暗灰黄色	(2.5Y4/2)	シルト	

層序	分布	土色・質			性格
Ⅱａ	T44～T62	灰黄褐色	(10YR4/2)	砂質ローム	
		灰色	(10Y5/1)	砂	
		同	(5Y5/1)	シルト	
		同	(10Y4/1,10Y5/1,7.5Y4/1)	粘土質ローム	
		オリーブ黒色	(10Y3/1)	シルト質ローム	
		同	(5Y3/2)	シルト	
Ⅱｂ	T12～T24	灰色	(5Y4/1)	砂質ローム	中世包含層
		同	(5Y4/1)	シルト	
	T29～T43	同	(5Y4/1,5Y5/1,7.5Y5/1)	粘土質ローム	
		黒褐色	(2.5Y3/2)	粘土質ローム	
		暗灰黄色	(2.5Y4/2,2.5Y5/2)	粘土質ローム	
		暗オリーブ褐色	(2.5Y3/3)	粘土質ローム	
Ⅲａ	T17～T23	黄灰色	(2.5Y4/1,2.5Y5/1)	粘土質ローム	中世遺構面
		暗灰黄色	(2.5Y4/2,2.5Y5/2)	粘土質ローム	・
	T27～T35				古代包含層
Ⅲｂ	T53～T56	灰色	(5Y5/1,7.5Y5/1)	シルト	
		にぶい黄色	(2.5Y6/3)	砂	
		同	(2.5Y6/4)	粘土	
Ⅲｃ	T44～T53	灰色	(5Y5/1)	シルト質ローム	旧河川
		同	(7.5Y5/1)	シルト	堆積土
Ⅳ	T11～T34	灰黄色	(2.5Y6/2)	粘土質ローム	古代遺構面
		黄褐色	(2.5Y5/3)	粘土質ローム	
		暗灰黄色	(2.5Y5/2)	シルト	
		同	(2.5Y5/2)	粘土質ローム	
Ⅴ	T12～T34	オリーブ灰色	(2.5GY5/1)	砂	地山
		同	(2.5GY5/1)	シルト質ローム	
		同	(2.5GY5/1)	シルト	
		暗オリーブ灰色	(2.5GY4/1)	砂	

第4表　ＮＥＪ－11基本層序観察表



第9図　ＮＥＪ－11トレンチの位置（1：2,000）

T 22　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅱb・Ⅲa・Ⅳ層。深掘り部分からⅤ層も確認した。遺構なし。Ⅰb層から越中瀬戸、Ⅱb層とⅢa層から古代の土師器が出土。

T 23　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅱb・Ⅲa・Ⅳ層。トレンチ西端は撹乱をうけている。遺構なし。Ⅲa層から古代の土師器が出土。

T 24　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅱb・Ⅳ層。トレンチ中央の一部が撹乱を受けている。遺構・遺物なし。

T 25　Ⅰa層の下にⅠb層が1.5m以上堆積する。トレンチ中央から東側は撹乱を受けている。遺構・遺物なし。

T 26　Ⅰa・Ⅰb層の下に撹乱土がある。トレンチ全面が撹乱を受けている。遺構・遺物なし。

T 27　Ⅰa・Ⅰb層の下に撹乱土がある。トレンチの東端にのみⅢa層とⅣ層が堆積するほかは撹乱を受けている。遺構なし。Ⅰb層から越中瀬戸・瀬戸・中世土師器・古代の土師器が出土。

T 28　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅲa・Ⅳ層。トレンチ中央部の一部が撹乱を受けている。遺構なし。Ⅰa層から肥前磁器、Ⅰb層から珠洲・古代の土師器、Ⅳ層上面から古代の土師器が出土。

T 29　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅱb・Ⅲa・Ⅳ層。深掘り部分からⅤ層も確認した。遺構なし。Ⅰb層から越中瀬戸、Ⅱb層とⅢa層から古代の土師器が出土。

T 30　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅱb・Ⅲa・Ⅳ層。遺構はⅢa層上面で幅40cmの溝1条、直径1.6mの土坑1基、直径25cmの小穴1基を検出。遺物は溝内から古代の土師器、Ⅱb層から珠洲・中国製白磁・古代の土師器が出土。

T 31　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅱb・Ⅲa・Ⅳ層。遺構はⅢa層上面で幅20cmの溝1条を検出。Ⅱb層から珠洲・中世土師器が出土。

T 32　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅱb・Ⅲa・Ⅳ層。Ⅲa層上面でトレンチ東端に溝（谷）の肩を検出。Ⅱb層から古代の土師器が出土。

T 33　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅱb・Ⅲa・Ⅳ層。Ⅲa層上面でトレンチ東端に溝（谷）の肩、西端に幅約20cmの溝1条を検出。Ⅱb層から古代の土師器が出土。

T 34　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅱb・Ⅲa・Ⅳ層。Ⅲa層上面でトレンチ東端に溝（谷）の肩を検出。Ⅰb層から珠洲・古代の土師器、Ⅱb層から珠洲・古代の土師器が出土。

T 35　層序はⅠ・Ⅲ層。遺構なし。Ⅰ層から土師器・中世土師器・珠洲・越中瀬戸・近世陶磁器が出土。

T 36　層序はⅠ・Ⅱb・Ⅲb層。遺構はⅢa層上面で、幅約1.5mの溝1条を検出。T 37の溝へ続く。Ⅰ層から須恵器・中世土師器・珠洲・越中瀬戸・肥前磁器、Ⅱ層から須恵器・中世土師器・珠洲が出土。特に珠洲の破片が多く出土している。

T 37　層序はⅠ・Ⅱb・Ⅲb層。遺構はⅢa層上面で溝2条と直径60cmの土坑1基を検出。そのうち幅約1.8mの溝はT 36より続き、東西方向に流れる。もう一条は調査区端から検出され、幅は不明。Ⅱb層から須恵器・土師器・中世土師器・珠洲が出土。特に珠洲の破片が多く出土している。

T 38　層序はⅠ・Ⅱ・Ⅲ層。遺構はⅢa層上面で溝2条、直径20cm前後の小穴6基を検出。そのうち幅約2.8mの溝1条はT 39の溝へ続く。もう一条の溝は調査区端で検出され、幅は不明。Ⅰ層から越中瀬戸・近世陶磁器、Ⅱ層から須恵器・土師器・中世土師器・珠洲が出土。特に珠洲の破片が多く出土している。

T 39　層序はⅠ・Ⅱ・Ⅲ層。遺構はⅢa層上面で、T 38より続く幅約2.5mの溝1条、直径80cmの土坑1基、10～30cmの小穴11基を検出。溝内から青磁、Ⅱ層から土師器・内黒土師器・中世土師器・珠洲が出土。

T 40　層序はⅠ・Ⅲ層。遺構面の直上が耕作土である。遺構はⅢａ層上面で幅20cmのＴ字状の溝１条、直径20cm前後の小穴２基を検出。Ⅰ層から土師器・珠洲・近世陶磁器・砥石片が出土。

T 41　層序はⅠ・Ⅲ層。遺構なし。Ⅰ層から土師器・珠洲・肥前磁器が出土。

T 42　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅱｂ・Ⅲｂ層。ここから北のトレンチは埋没旧河道である。現況の標高はＴ41から３ｍ下がる。遺構なし。Ⅰｂ層から近世陶磁器・土師器、Ⅱｂ層から土師器が出土。

T 43　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅱｂ・Ⅲｂ層。遺構なし。Ⅱｂ層から土師器が出土。

T 44　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅱａ・Ⅲｂ・Ⅲｃ層。遺構なし。Ⅰａ層から須恵器が出土。

T 45　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅱｂ・Ⅲｂ層。遺構・遺物なし。なお、隣接地から須恵器を表採した。

T 46　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅱｂ・Ⅲｂ層。遺構なし。Ⅰｂ層から土師器が出土。

T 47　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅱｂ・Ⅲｂ層。遺構・遺物なし。

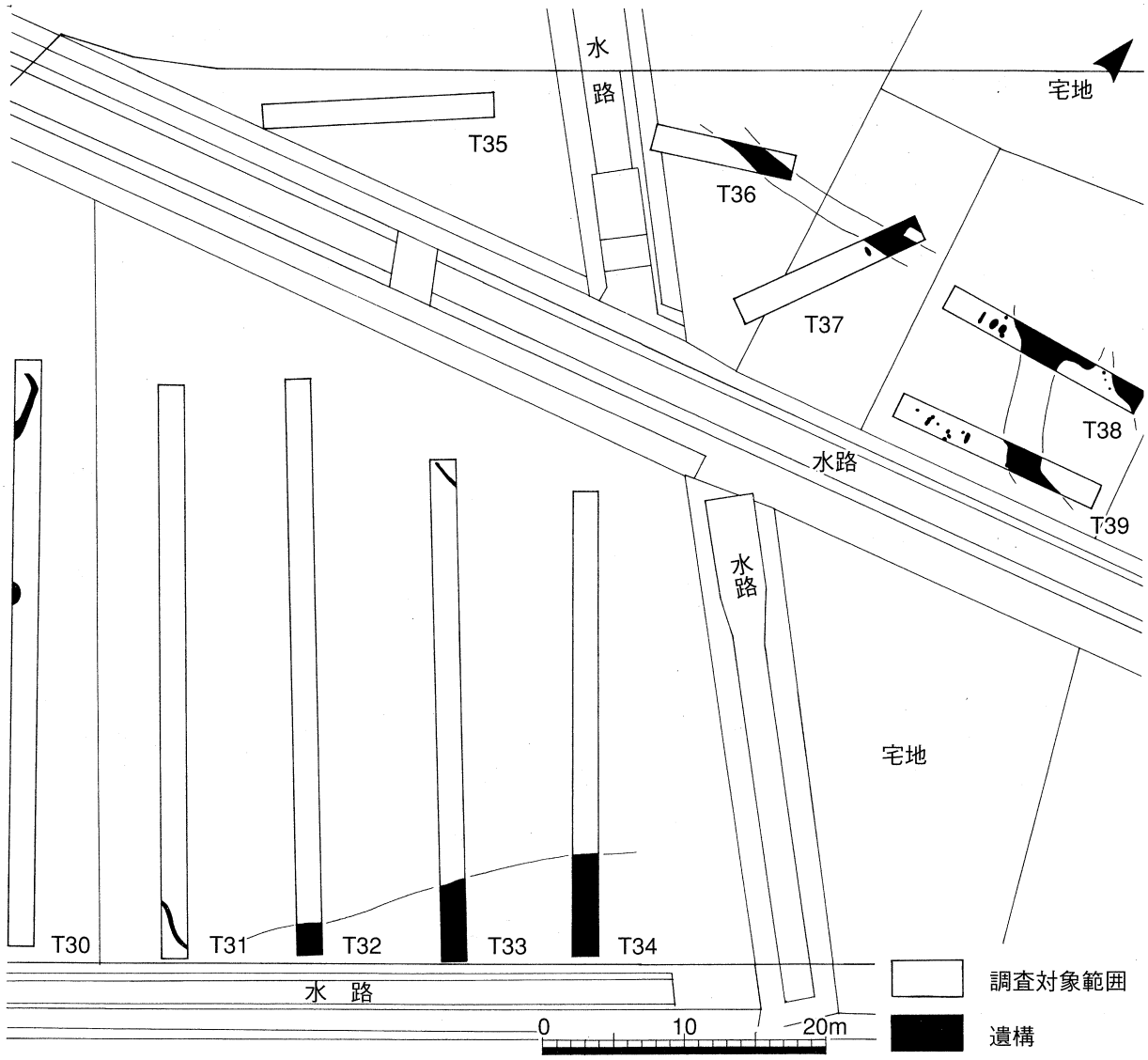
T 48　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅱｂ・Ⅲｂ層。遺構・遺物なし。

T 49　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅱｂ・Ⅲｂ層。遺構・遺物なし。

T 50　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅱｂ・Ⅲｂ層。遺構・遺物なし。

T 51　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅱｂ・Ⅲｂ層。遺構なし。Ⅰｂ層から近代磁器が出土。

T 52　層序はⅠａ・Ⅰｂ・Ⅱｂ・Ⅲｂ層。トレンチの中心から東に向かって一段下がった地形にな



第10図　ＮＥＪ－11遺構概略図（1：500）

っており、ここより北のトレンチではこの地形が続く。遺構・遺物なし。

T 53　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅲc層。トレンチの西端5m付近から一段下がった地形になっている。遺構・遺物なし。

T 54　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅱa層。遺構なし。Ⅱa層から越中瀬戸が出土。

T 55　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅱa層。東端に深さ1m以上の撹乱がある。遺構なし。Ⅰb層から越中瀬戸が出土。

T 56　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅱa層。Ⅰb層の間に近現代の溝2条がある。遺物なし。

T 57　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅱa層。遺構なし。Ⅰb層から京焼系陶器が出土。

T 58　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅱa層。遺構なし。Ⅱa層から肥前系磁器が出土。

T 59　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅱa層。遺構なし。Ⅰb層から肥前系磁器が出土。

T 60　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅱa層。遺構・遺物なし。

T 61　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅱa層。遺構・遺物なし。

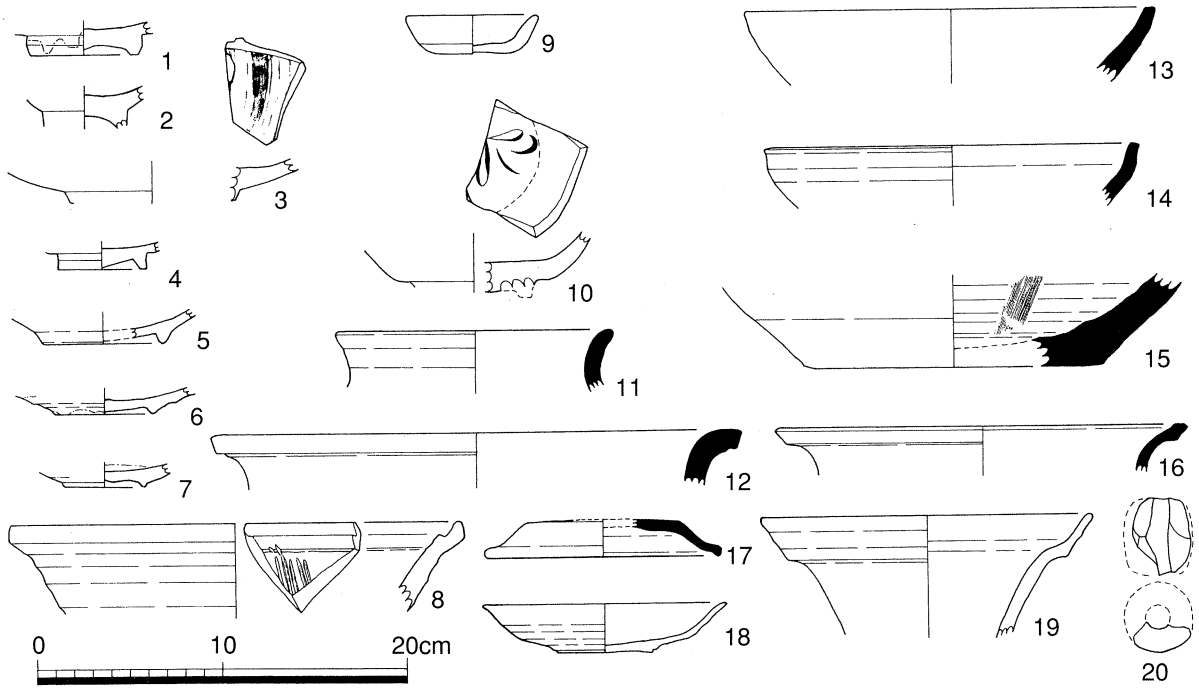
T 62　層序はⅠa・Ⅰb・Ⅱa層。遺構・遺物なし。　（深堀）

（4）出土遺物　（第11図・写真図版9）

遺物は近世陶磁器、中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・輸入陶磁器、土師器・須恵器、弥生土器、土錘が出土した。

近世　1～8は近世陶磁器。1は志野釉の唐津椀。2は京焼系の椀。3は内面に刷毛目を施した唐津の皿。4は越中瀬戸の天目椀。5～7は越中瀬戸の皿。8は越中瀬戸の擂鉢である。1はT 35、2はT 57、3はT 3、4はT 37、5はT 38、6はT 27、7はT 30、8はT 38から出土した。近世陶磁器は調査対象地内全体から出土しているが、大部分がⅠ層からである。

中世　9～15は中世の遺物である。9は非ロクロの中世土師器。13～14世紀のものである〔越前1996〕。10は龍泉窯系の青磁碗。見込みに文様が施される。T 39の溝から出土した。11～15は珠洲。11・12は壷、13・14は鉢、15は擂鉢。時期はⅠ～Ⅱ期である〔吉岡1994〕。なお、図示していない



第11図　ＮＥＪ－11出土遺物実測図（1：4）

が、底部に墨痕が残る珠洲がＴ39から出土した。９はＴ31、11はＴ38、12はＴ36、13はＴ38、14はＴ34、15はＴ36から出土した。中世の遺物はⅡｂ層を中心に出土している。

古代　16～18は古代の遺物。16は須恵器の壺。17は須恵器の杯蓋で、９世紀頃のものである〔池野1996〕。18は土師器の椀。成形はロクロナデ、底部は回転糸切りである。10世紀末から11世紀初め頃のものである〔出越1997〕。16はＴ37、18はＴ29から出土した。17はＴ45隣接地からの表採である。古代の遺物はⅡｂ層からも出土するが、Ⅲａ層を中心に出土している。

その他、19は弥生土器壷である。終末期のものと考えられる。Ｔ６の埋没旧河道から出土しており、表面は磨耗している。20は土錘である。Ｔ31から出土した。表面は著しく摩耗している。　（中野）

（５）小括

調査の結果、調査対象地の中央で、古代から中世の遺跡の広がりを確認した。Ｔ17からＴ29には中世の遺物包含層と古代の遺物包含層、Ｔ30からＴ34には中世の遺構検出面と古代の遺物包含層、Ｔ35からＴ41には中世の遺構面が存在している。またＴ11からＴ15で埋没旧河道の肩を確認し、旧河川堆積土の分布から、Ｔ１からＴ16、およびＴ42からＴ62は埋没旧河道であることを確認した。なおＴ23からＴ28にかけては、部分的に撹乱を受けている。

以下、上層と下層に分けてまとめてみる。

上層　上層の遺構はＴ30からＴ34、Ｔ36からＴ40のⅢａ層上面で確認した。遺構は溝、土坑、小穴である。特にＴ38・39・40には柱穴かと考えられる小穴を検出しており、建物が存在し、集落が立地する可能性がある。またＴ32からＴ34の東では溝（谷？）の肩が検出されている。遺物は、遺物包含層であるⅡｂ層から須恵器・中世土師器・珠洲などが多数出土している。Ｔ17からＴ23にかけては、遺構・遺物ともに検出されなかったが、遺構検出面であるⅢａ層が同様に広がっており、遺構がある可能性が考えられる。また、プラント・オパール分析の結果から、Ⅱｂ層に水田が立地する可能性が指摘されたので、中世以降の水田があると考えられる。

下層　下層の遺構は検出していないが、Ｔ17からＴ34にかけて、遺物包含層であるⅢａ層から古代の土師器が出土している。プラント・オパール分析の結果、Ⅳ層面に水田が立地していた可能性が高いことが確認された。Ⅲａ層からの遺物の出土とあわせて、Ⅳ層面を遺構面として、古代以前の水田が存在する可能性が考えられる。古代以前の水田があるとすれば、今回の調査対象地付近は東大寺領荘園「須加村墾田地」に比定されているので、これと同時期の水田となり、両者の関係を考えなければならないだろう。

以上の結果から、遺跡の範囲は埋没旧河道に挟まれたＴ17からＴ41であると考えられる。調査対象地内の遺跡面積は、延長約333ｍ・幅約60ｍで約19,980㎡である。また、古代と中世の２面が重なっている範囲の面積は約12,220㎡である。延べ面積は約32,200㎡となる。遺跡の名称はＮＥＪ－11を改め、付近の字名から新たに岩坪岡田島遺跡とした。　（深堀）

Ⅳ　プラント・オパール分析

株式会社 古環境研究所

1．はじめに

植物珪酸体は、ガラスの主成分である珪酸（SiO２）が植物の細胞内に蓄積したものであり、植物が枯死した後も微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。プラント・オパール（植物珪酸体）分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出し、その組成や量を明らかにする方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている。

この調査は、ＮＥＪ－11埋蔵文化財包蔵地（能越自動車道建設路線）において、発掘調査に先立ち埋蔵水田跡の探査を目的にプラント・オパール分析を行ったものである。

2．試料

調査地点は、調査区内に掘削された試掘坑およびトレンチであり、南西側より順に設定されたNo.１～No.28の計28地点である（図１）。調査区の基本土層は、上位より暗灰黄色粘土およびオリーブ黒色シルト（Ⅰａ層，現水田）、灰色粘土および橙色シルト（Ⅰｂ層，客土）、青灰～灰色シルト（Ⅰｃ層）、灰色粘質土（Ⅱａ層）、暗灰黄色～黒褐色粘質土（Ⅱｂ層）、黄灰色粘質土（Ⅲａ層）、灰色シルト（Ⅲｂ層）、灰黄色粘質土（Ⅳ層）、オリーブ灰色砂（Ⅴ層）である。分析試料は、各地点とも試掘坑およびトレンチの壁面より採取された。分析試料の一覧を第5表に示す。

3．分析法

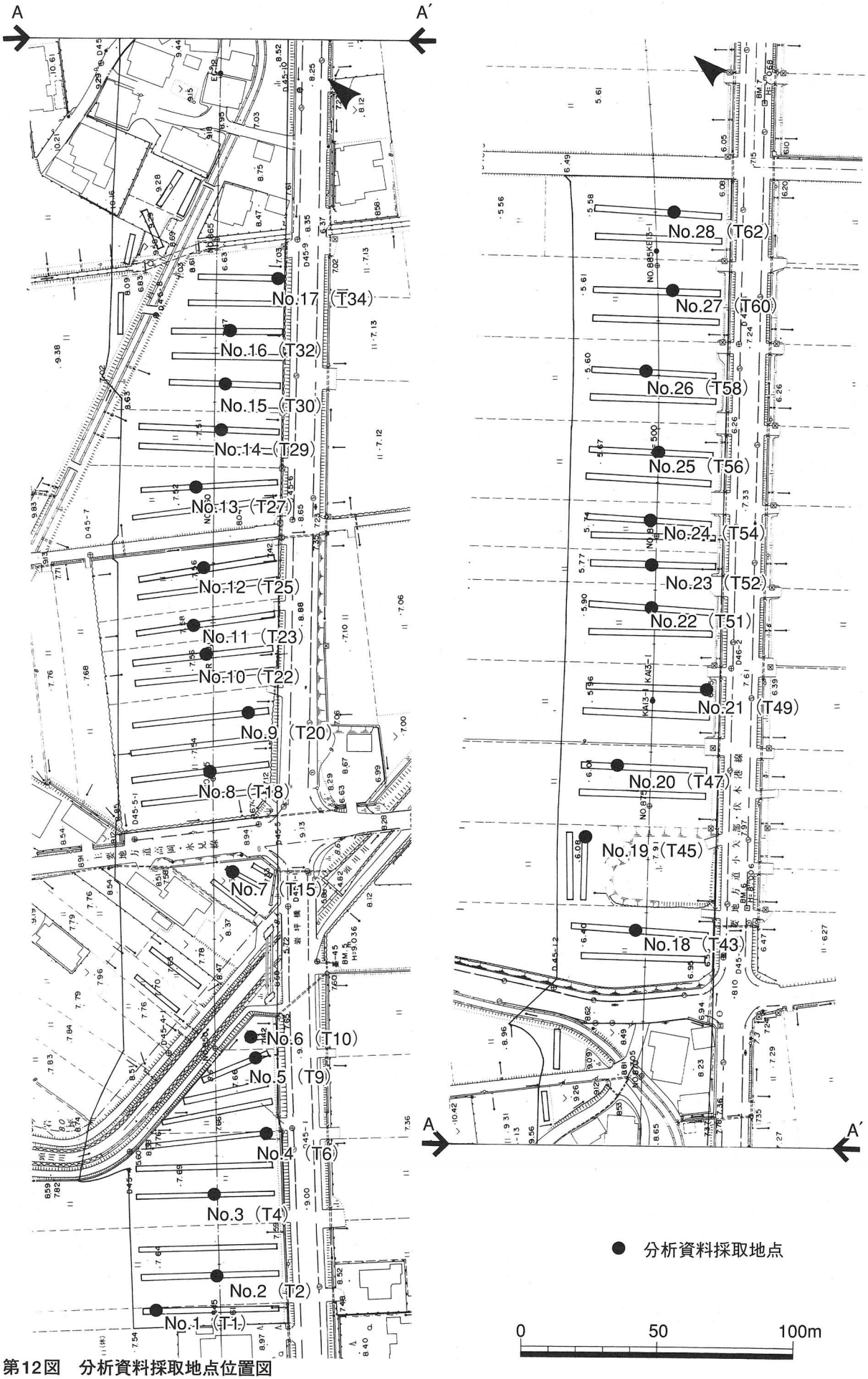
プラント・オパールの抽出と定量は、「プラント・オパール定量分析法（藤原，1976）」をもとに、次の手順で行った。

１）試料土の絶乾（105℃・24時間）

２）試料土約１ｇを秤量、ガラスビーズ添加（直径約40μｍ，約0.02g）

地点	試料	地点	試料
No.1	Ⅰａ層，Ⅰｂ層，Ⅰｃ層上中下３点	No.15	Ⅰａ層，Ⅰｂ層，Ⅱｂ層，Ⅲａ層，Ⅳ層
No.2	Ⅰａ層上下２点，Ⅰｂ層上中下３点，Ⅰｃ層上下２点	No.16	Ⅰｂ層，Ⅱｂ層上下２点，Ⅲａ層，Ⅳ層
No.3	Ⅰａ層，Ⅰｂ層上下２点，Ⅰｃ層上中下３点	No.17	Ⅰａ層，Ⅰｂ層，Ⅱｂ層上下２点
No.4	Ⅰｂ層上下２点，Ⅰｃ層上中下３点	No.18	Ⅰａ層，Ⅰｂ層上下２点，Ⅱｂ層，Ⅲｂ層
No.5	Ⅰｂ層上下２点，Ⅰｃ層上中下３点	No.19	Ⅰａ層，Ⅱａ層，Ⅲｂ層上中下３点
No.6	Ⅰｃ層上～下４点	No.20	Ⅰａ層，Ⅰｂ層，Ⅱａ層上下２点，Ⅲｂ層
No.7	Ⅰａ層，Ⅰｂ層，Ⅱｂ層，Ⅳ層上下２点	No.21	Ⅰａ層，Ⅰｂ層上中下３点，Ⅲｂ層上下２点
No.8	Ⅰｂ層上中下３点，Ⅱｂ層，Ⅲａ層	No.22	Ⅰａ層，Ⅰｂ層，Ⅱａ層上下２点，Ⅲｂ層上下２点
No.9	Ⅰｂ層，Ⅱｂ層，Ⅲａ層，Ⅳ層	No.23	Ⅰａ層，Ⅰｂ層上下２点，Ⅱａ層上下２点
No.10	Ⅰｂ層，Ⅱｂ層，Ⅲａ層，Ⅳ層	No.24	Ⅰａ層上下２点，Ⅰｂ層，Ⅱａ層上下２点
No.11	Ⅰｂ層，Ⅱｂ層上下２点	No.25	Ⅰａ層，Ⅰｂ層上下２点，Ⅱａ層上下２点
No.12	Ⅰｂ層上～下５点	No.26	Ⅰａ層，Ⅰｂ層上下２点，Ⅱａ層
No.13	Ⅰｂ層上～下４点	No.27	Ⅰａ層，Ⅰｂ層上中下３点，Ⅱａ層上中下３点
No.14	Ⅰｂ層，Ⅱｂ層上～下４点，Ⅳ層，Ⅴ層	No.28	Ⅰａ層，Ⅰｂ層上～下４点，Ⅱａ層

第５表　分析試料一覧



第12図　分析資料採取地点位置図

3）電気炉灰化法による脱有機物処理

4）超音波による分散（300W・42KHz・10分間）

5）沈底法による微粒子（20μm以下）除去、乾燥

6）封入剤（オイキット）中に分散，プレパラート作成

7）検鏡・計数

検鏡は、おもにイネ科植物の機動細胞（葉身にのみ形成される）に由来するプラント・オパール（以下、プラント・オパールと略す）を同定の対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。

検鏡結果は、計数値を試料1g中のプラント・オパール個数（試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズの個数の比率を乗じて求める）に換算して示した。また、主要な分類群については、この値に試料の仮比重（1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重，単位：10－5g）を乗じて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。換算係数は、イネは赤米、キビ族はヒエ、ヨシ属はヨシ、ウシクサ族はススキ、タケ亜科については数種の平均値を用いた。その値は、それぞれ2.94（種実重は1.03）、8.40、6.31、1.24、0.48である（杉山・藤原，1987）。

4．分析結果

採取された試料すべてについて分析を行った結果、イネ、ヨシ属、ウシクサ族（ススキ属型）、シバ属、タケ亜科のプラント・オパールが検出された。これらの分類群について定量を行い、その結果を第6表～第7表、第13図～第17図に示した。なお、主要な分類群については巻末に顕微鏡写真を示した。

5．考察

（1）稲作の可能性について

プラント・オパール分析により水田跡の調査（探査あるいは検証）を行うにあたっては、イネのプラント・オパールが試料1gあたりおよそ5,000個以上の密度で検出された場合、そこが稲作跡である可能性が高いと判断される。また、当該層においてプラント・オパール密度にピークが認められれば、上層からの混入の危険性は考えにくいことから、密度が基準値に満たなくても稲作が行われていた可能性は高いと考えられる。これらのことを基準として以下、各層ごとに稲作の可能性について検討を行う。なお、各地点における稲作跡の可能性を第8表にまとめる。

1）Ⅰa層とⅠb層

Ⅰa層およびⅠb層では、分析を行った地点のほぼすべてからイネのプラント・オパールが高い密度で検出されている。なお、Ⅰa層は現代の耕作土、Ⅰb層は現水田の客土であり、分析結果はこのことと良く符合している。

2）Ⅰc層

Ⅰc層は、No.1～No.7地点で堆積が認められ、No.1～No.6地点において分析を行った。その結果、No.2地点を除く各地点よりイネのプラント・オパールが検出された。このうち、No.3地点とNo.6地点ではプラント・オパール密度がそれぞれ2,100個/g、2,600個/gと比較的高い値である。このことから、両地点についてはⅠc層も耕作層であった可能性が考えられる。なお、No.1地点、No.4地点およびNo.5地点では1,000個/g弱の低密度であることから、これらの地点については耕作層であった可能性が考えられるものの、上層からの混入である危険性も否定できない。

3）Ⅱａ層

Ⅱａ層は、調査区北東部のNo.19地点、No.20地点、No.22～28地点で堆積が認められた。これらの地点について分析を行ったところ、イネのプラント・オパールはNo.19～No.25地点とNo.27地点において検出された。このうち、No.20地点とNo.22地点ではプラント・オパール密度がそれぞれ5,200個/g、12,400個/gと高い値である。また、No.19地点、No.24地点でも3,000個/g前後の比較的高い密度である。したがって、これらの地点ではⅡａ層は耕作層であった可能性が高いと考えられる。

4）Ⅱｂ層

Ⅱｂ層は、No.7～No.11地点、No.14～No.18地点で堆積がみられた。これら各地点について分析を行った結果、No.9地点、No.11地点、No.14～No.18地点においてイネのプラント・オパールが検出された。このうち、No.9地点、No.11地点、No.14地点およびNo.16地点では、プラント・オパール密度が3,000個/g前後の比較的高い値である。よって、これらの地点ではⅡｂ層において稲作が行われていた可能性が考えられる。

5）Ⅲｂ層

Ⅲｂ層の堆積は、No.18～No.22地点で認められた。これら各地点について分析を行ったところ、No.18～No.21地点よりイネのプラント・オパールが検出された。プラント・オパール密度は、No.19地点では3,000個/g程度と比較的高いもののその他は低い値である。このことから、これらの地点のⅢｂ層は耕作層であった可能性が考えられるが、No.19地点以外に関しては他所からプラント・オパールが混入したことも考えられる。

6）Ⅳ層

Ⅳ層は、No.7地点、No.9地点、No.10地点、No.14～No.16地点で堆積が認められた。イネのプラント・オパールは、No.9地点、No.10地点、No.14地点およびNo.16地点で検出された。このうち、No.14地点では7,000個/gと高い密度であることから、本地点については稲作跡である可能性が高いと考えられる。他の地点については、密度が1,000個/g未満と低いことから稲作の行われた可能性は考えられるものの、他所からの混入である危険性も否定できない。

7）Ⅲａ層，Ⅴ層

Ⅲａ層は、No.8～No.10地点、No.15地点、No.16地点で、Ⅴ層はNo.14地点で堆積が認められた。これらについて分析を行ったところ、イネのプラント・オパールはいずれの地点からも検出されなかった。したがって、Ⅲａ層およびⅤ層については稲作跡である可能性は考えにくい。

（2）その他の農耕の可能性について

プラント・オパール分析で同定される分類群のうち、栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもオオムギ族（ムギ類が含まれる）、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、ジュズダマ属型（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属型（シコクビエが含まれる）、モロコシ属型（モロコシが含まれる）などがある。しかしながら、本遺跡ではこれらのプラント・オパールはいずれからも検出されておらず、稲作以外の農耕が行われていた可能性については不明である。ただし、イネ科植物の中には未検討のものもあるため、同定できなかったものの中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。また、プラント・オパール分析で同定が可能なものは多くがイネ科の草本植物であることから、マメ類、イモ類および野菜類などは分析の対象外である。

6．まとめ

ＮＥＪ－11においてプラント・オパール分析を行い、稲作跡の探査を試みた。その結果、現水田

の下位では、No.3地点およびNo.6地点付近のⅠc層、No.19～No.27地点一帯のⅡa層、No.9～No.18地点一帯のⅡb層、No.19地点辺りのⅢb層およびNo.14地点辺りのⅣ層において稲作が行われていた可能性が認められた。（松田隆二）

参考文献

杉山真二・松田隆二・藤原宏志（1988）機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用－古代農耕追求のための基礎資料として－，考古学と自然科学，20:81-92.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－，考古学と自然科学，9:15-29.

藤原宏志（1979）プラント・オパール分析法の基礎的研究(3)－福岡・板付遺跡（夜臼式）水田および群馬・日高遺跡（弥生時代）水田におけるイネ（O.sativa L.）生産総量の推定－，考古学と自然科学，12:29-41.

藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)－プラント・オパール分析による水田址の探査－，考古学と自然科学，17:73-85.

検出密度（単位：×100個/g）

分類群（和名＼学名）	地点・試料	No.1					No.2							No.3					
		Ia	Ib	Ic-1	Ic-2	Ic-3	Ia-1	Ia-2	Ib-1	Ib-2	Ib-3	Ic-1	Ic-2	Ia	Ib-1	Ib-2	Ic-1	Ic-2	Ic-3
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	34	20	6			25	16		6				86	35	35	21	6	7
ヨシ属	*Phragmites*																		
ススキ属型	*Miscanthus* type	7		6	7								7	7			14		
シバ属	*Zoisia*																		
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	41	13	6	7	13	37	32	7	19	21	26	13	57	18	14	42	24	36

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/m²・cm）

分類群（和名＼学名）	地点・試料	Ia	Ib	Ic-1	Ic-2	Ic-3	Ia-1	Ia-2	Ib-1	Ib-2	Ib-3	Ic-1	Ic-2	Ia	Ib-1	Ib-2	Ic-1	Ic-2	Ic-3
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	1.00	0.58	0.19			0.73	0.47		0.19				2.53	1.03	1.02	0.62	0.18	0.21
ヨシ属	*Phragmites*																		
ススキ属型	*Miscanthus* type	0.08		0.08	0.08								0.08	0.09			0.17		
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	0.20	0.06	0.03	0.03	0.06	0.18	0.16	0.03	0.09	0.10	0.13	0.06	0.28	0.08	0.07	0.20	0.12	0.17

検出密度（単位：×100個/g）

分類群（和名＼学名）	地点・試料	No.4					No.5					No.6				No.7			
		Ib-1	Ib-2	Ic-1	Ic-2	Ic-3	Ib-1	Ib-2	Ic-1	Ic-2	Ic-3	Ic-1	Ic-2	Ic-3	Ic-4	Ia	Ib	IIb	IV-1	IV-2
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	13		7	6	6	29	20	6	7		26	6	5		73	13			
ヨシ属	*Phragmites*																			
ススキ属型	*Miscanthus* type	7							6	7		7				13	6			
シバ属	*Zoisia*																			
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	13	13	35	6	13	29	7	18	28	7	59	6	5	21	46	56	11	20	

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/m²・cm）

分類群（和名＼学名）	地点・試料	Ib-1	Ib-2	Ic-1	Ic-2	Ic-3	Ib-1	Ib-2	Ic-1	Ic-2	Ic-3	Ic-1	Ic-2	Ic-3	Ic-4	Ia	Ib	IIb	IV-1	IV-2
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	0.39		0.20	0.19	0.19	0.86	0.58	0.17	0.21		0.78	0.19	0.16		2.14	0.37			
ヨシ属	*Phragmites*																			
ススキ属型	*Miscanthus* type	0.08							0.07	0.09		0.08				0.16	0.08			
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	0.06	0.06	0.17	0.03	0.06	0.14	0.03	0.08	0.14	0.03	0.29	0.03	0.03	0.10	0.22	0.27	0.05	0.10	

検出密度（単位：×100個/g）

分類群（和名＼学名）	地点・試料	No.8					No.9				No.10				No.11		
		Ib-1	Ib-2	Ib-3	IIb	IIIa	Ib	IIb	IIIa	IV	Ib	IIb	IIIa	IV	Ib	IIb-1	IIb-2
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	28	5				36	34		6	26			6	14	29	11
ヨシ属	*Phragmites*						7						14				
ススキ属型	*Miscanthus* type		9	6		5	15	6			7	7			7	7	
シバ属	*Zoisia*											7					
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	18	5		15	15	36	23	17	12	33	20	14	11	7	29	11

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/m²・cm）

分類群（和名＼学名）	地点・試料	Ib-1	Ib-2	Ib-3	IIb	IIIa	Ib	IIb	IIIa	IV	Ib	IIb	IIIa	IV	Ib	IIb-1	IIb-2
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	0.81	0.14				1.07	1.01		0.18	0.78			0.16	0.41	0.84	0.32
ヨシ属	*Phragmites*						0.46						0.87				
ススキ属型	*Miscanthus* type		0.12	0.07		0.06	0.18	0.07			0.08	0.08			0.09	0.09	
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	0.09	0.02		0.07	0.07	0.17	0.11	0.08	0.06	0.16	0.09	0.07	0.05	0.03	0.14	0.05

検出密度（単位：×100個/g）

分類群（和名＼学名）	地点・試料	No.12					No.13				No.14						
		Ib-1	Ib-2	Ib-3	Ib-4	Ib-5	Ib-1	Ib-2	Ib-3	Ib-4	Ib	IIb-1	IIb-2	IIb-3	IIb-4	IV	V
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	32	25	10	28		20	29	11	6	52	17	34	7		70	
ヨシ属	*Phragmites*			10								6				6	
ススキ属型	*Miscanthus* type		5	15		6	7	15			13	6	6		14	6	
シバ属	*Zoisia*			5													
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)				7												

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/m²・cm）

分類群（和名＼学名）	地点・試料	Ib-1	Ib-2	Ib-3	Ib-4	Ib-5	Ib-1	Ib-2	Ib-3	Ib-4	Ib	IIb-1	IIb-2	IIb-3	IIb-4	IV	V
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	0.95	0.74	0.29	0.81		0.58	0.86	0.31	0.18	1.54	0.49	1.01	0.21		2.04	
ヨシ属	*Phragmites*			0.62								0.35				0.40	
ススキ属型	*Miscanthus* type		0.06	0.18		0.07	0.08	0.18			0.16	0.07	0.07		0.17	0.08	
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)				0.03												

検出密度（単位：×100個/g）

分類群（和名＼学名）	地点・試料	No.15					No.16					No.17				No.18				
		Ia	Ib	IIb	IIIa	IV	Ib	IIb-1	IIb-2	IIIa	IV	Ia	Ib	IIb-1	IIb-2	Ia	Ib-1	Ib-2	IIb	IIIb
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	60	21	18				31	16		9	44	37	16	18	41	24	34	10	13
ヨシ属	*Phragmites*									5										
ススキ属型	*Miscanthus* type	11	28	18	9		5	6			5	11		5		5	6			6
シバ属	*Zoisia*																			
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	33		32			26	38	37	5	14	39	37	10	18	20	18	34	14	13

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/m²・cm）

分類群（和名＼学名）	地点・試料	Ia	Ib	IIb	IIIa	IV	Ib	IIb-1	IIb-2	IIIa	IV	Ia	Ib	IIb-1	IIb-2	Ia	Ib-1	Ib-2	IIb	IIIb
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	1.76	0.63	0.54				0.92	0.47		0.27	1.29	1.08	0.46	0.54	1.20	0.70	1.01	0.28	0.37
ヨシ属	*Phragmites*									0.33										
ススキ属型	*Miscanthus* type	0.13	0.35	0.23	0.12		0.07	0.08			0.06	0.14		0.06		0.06	0.07			0.08
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	0.16		0.15			0.13	0.18	0.18	0.02	0.07	0.18	0.18	0.05	0.09	0.10	0.09	0.16	0.07	0.06

第6表　ＮＥＪ－11のプラント・オパール分析結果（1），（※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。）

検出密度（単位：×100個/g）

分類群（和名＼学名）	地点・試料	No.19 Ⅰa	No.19 Ⅱa	No.19 Ⅲb-1	No.19 Ⅲb-2	No.19 Ⅲb-3	No.20 Ⅰa	No.20 Ⅰb	No.20 Ⅱa-1	No.20 Ⅱa-2	No.20 Ⅲb	No.21 Ⅰa	No.21 Ⅰb-1	No.21 Ⅰb-2	No.21 Ⅰb-3	No.21 Ⅲb-1	No.21 Ⅲb-2
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	31	32	28	6	11	83	61	52	16	6	62	16	19		4	
ヨシ属	*Phragmites*																
ススキ属型	*Miscanthus* type	5	13				6	14					5				
シバ属	*Zoisia*									5							
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	41	32	7	12	16	51	34	46	26	6	34	16	14		13	

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/m²・cm）

分類群（和名＼学名）	地点・試料	No.19 Ⅰa	No.19 Ⅱa	No.19 Ⅲb-1	No.19 Ⅲb-2	No.19 Ⅲb-3	No.20 Ⅰa	No.20 Ⅰb	No.20 Ⅱa-1	No.20 Ⅱa-2	No.20 Ⅲb	No.21 Ⅰa	No.21 Ⅰb-1	No.21 Ⅰb-2	No.21 Ⅰb-3	No.21 Ⅲb-1	No.21 Ⅲb-2
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	0.90	0.94	0.81	0.18	0.32	2.43	1.80	1.52	0.47	0.17	1.81	0.47	0.54		0.13	
ヨシ属	*Phragmites*																
ススキ属型	*Miscanthus* type	0.06	0.16				0.08	0.17					0.07				
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	0.20	0.15	0.03	0.06	0.08	0.24	0.16	0.22	0.13	0.03	0.16	0.08	0.07		0.06	

検出密度（単位：×100個/g）

分類群（和名＼学名）	地点・試料	No.22 Ⅰa	No.22 Ⅰb	No.22 Ⅱa-1	No.22 Ⅱa-2	No.22 Ⅲb-1	No.22 Ⅲb-2	No.23 Ⅰa	No.23 Ⅰb-1	No.23 Ⅰb-2	No.23 Ⅱa-1	No.23 Ⅱa-2	No.24 Ⅰa-1	No.24 Ⅰa-2	No.24 Ⅰb	No.24 Ⅱa-1	No.24 Ⅱa-2
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	77	11	23	124			42	13	42	12		37	25	7	7	27
ヨシ属	*Phragmites*																
ススキ属型	*Miscanthus* type	6	5	6	11			5		5	18		5		13		
シバ属	*Zoisia*																
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	36	16	18	147	17		38	25	52	18	4	31	25	33	29	7

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/m²・cm）

分類群（和名＼学名）	地点・試料	No.22 Ⅰa	No.22 Ⅰb	No.22 Ⅱa-1	No.22 Ⅱa-2	No.22 Ⅲb-1	No.22 Ⅲb-2	No.23 Ⅰa	No.23 Ⅰb-1	No.23 Ⅰb-2	No.23 Ⅱa-1	No.23 Ⅱa-2	No.24 Ⅰa-1	No.24 Ⅰa-2	No.24 Ⅰb	No.24 Ⅱa-1	No.24 Ⅱa-2
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	2.28	0.32	0.69	3.65			1.24	0.37	1.22	0.35		1.08	0.74	0.20	0.22	0.80
ヨシ属	*Phragmites*																
ススキ属型	*Miscanthus* type	0.07	0.07	0.07	0.14			0.06		0.06	0.22		0.06		0.17		
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	0.17	0.08	0.08	0.71	0.08		0.18	0.12	0.25	0.09	0.02	0.15	0.12	0.16	0.14	0.03

検出密度（単位：×100個/g）

分類群（和名＼学名）	地点・試料	No.25 Ⅰa	No.25 Ⅰb-1	No.25 Ⅰb-2	No.25 Ⅱa-1	No.25 Ⅱa-2	No.26 Ⅰa	No.26 Ⅰb-1	No.26 Ⅰb-2	No.26 Ⅱa	No.27 Ⅰa	No.27 Ⅰb-1	No.27 Ⅰb-2	No.27 Ⅰb-3	No.27 Ⅱa-1	No.27 Ⅱa-2	No.27 Ⅱa-3
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	52	42	13	12		53	7	15		65	20			6	7	
ヨシ属	*Phragmites*																
ススキ属型	*Miscanthus* type	6	7	6			11			6	13	7					
シバ属	*Zoisia*							7		6		7	6				
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	32	49	13	12		16	28	36	22	45	39			19	27	

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/m²・cm）

分類群（和名＼学名）	地点・試料	No.25 Ⅰa	No.25 Ⅰb-1	No.25 Ⅰb-2	No.25 Ⅱa-1	No.25 Ⅱa-2	No.26 Ⅰa	No.26 Ⅰb-1	No.26 Ⅰb-2	No.26 Ⅱa	No.27 Ⅰa	No.27 Ⅰb-1	No.27 Ⅰb-2	No.27 Ⅰb-3	No.27 Ⅱa-1	No.27 Ⅱa-2	No.27 Ⅱa-3
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	1.52	1.23	0.37	0.36		1.57	0.20	0.43		1.90	0.57			0.18	0.20	
ヨシ属	*Phragmites*																
ススキ属型	*Miscanthus* type	0.08	0.09	0.08			0.13			0.07	0.16	0.08					
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	0.16	0.23	0.06	0.06		0.08	0.13	0.17	0.11	0.22	0.19			0.09	0.13	

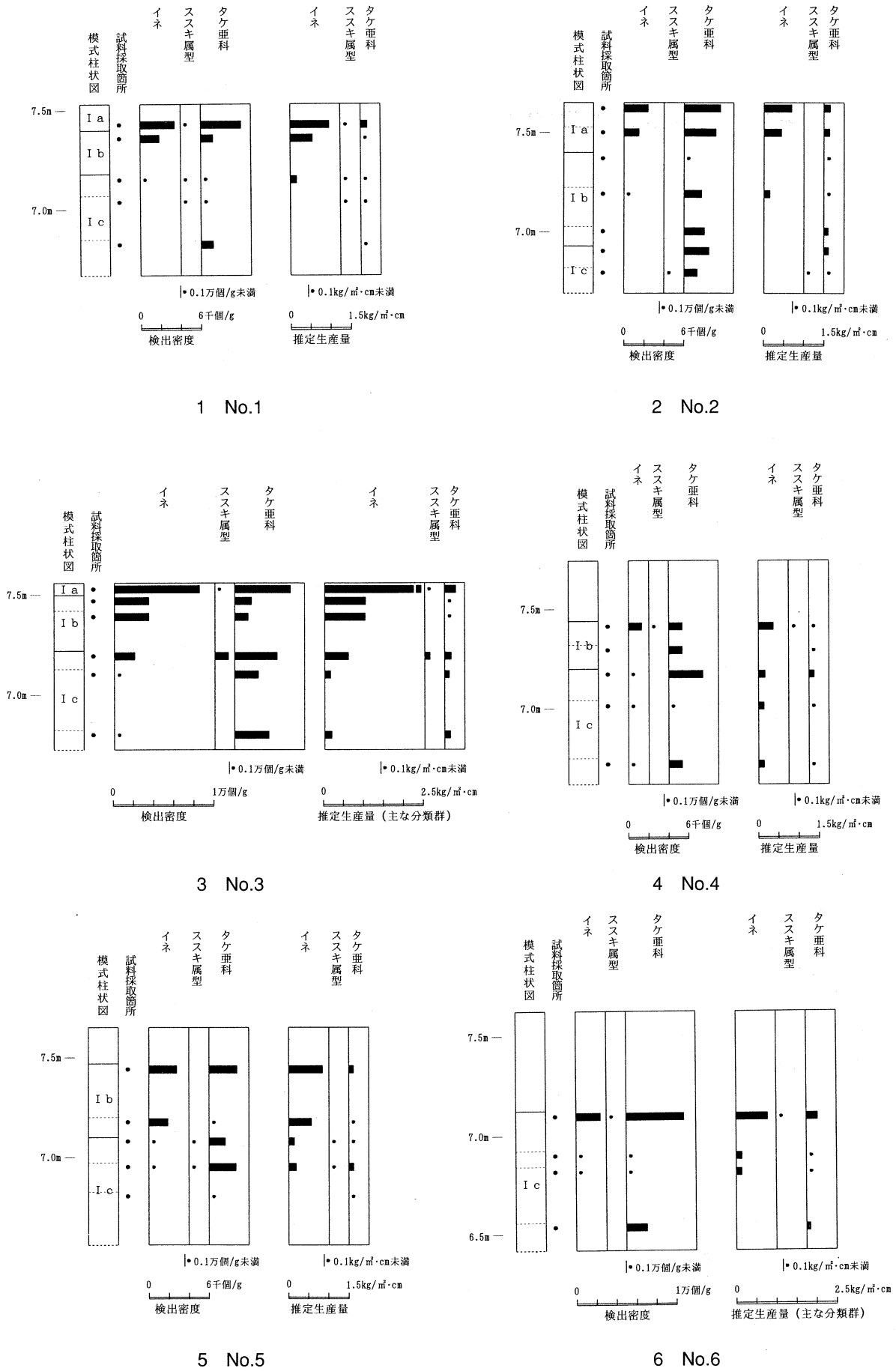
検出密度（単位：×100個/g）

分類群（和名＼学名）	地点・試料	No.28 Ⅰa	No.28 Ⅰb-1	No.28 Ⅰb-2	No.28 Ⅰb-3	No.28 Ⅰb-4	No.28 Ⅱa
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	57	10	6			
ヨシ属	*Phragmites*					5	
ススキ属型	*Miscanthus* type	13					
シバ属	*Zoisia*						
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	25	21	13	5	10	12

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/m²・cm）

分類群（和名＼学名）	地点・試料	No.28 Ⅰa	No.28 Ⅰb-1	No.28 Ⅰb-2	No.28 Ⅰb-3	No.28 Ⅰb-4	No.28 Ⅱa
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	1.68	0.31	0.19			
ヨシ属	*Phragmites*					0.32	
ススキ属型	*Miscanthus* type	0.16					
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	0.12	0.10	0.06	0.03	0.05	0.06

第7表　ＮＥＪ－11のプラント・オパール分析結果（2），（※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。）



1　No.1

2　No.2

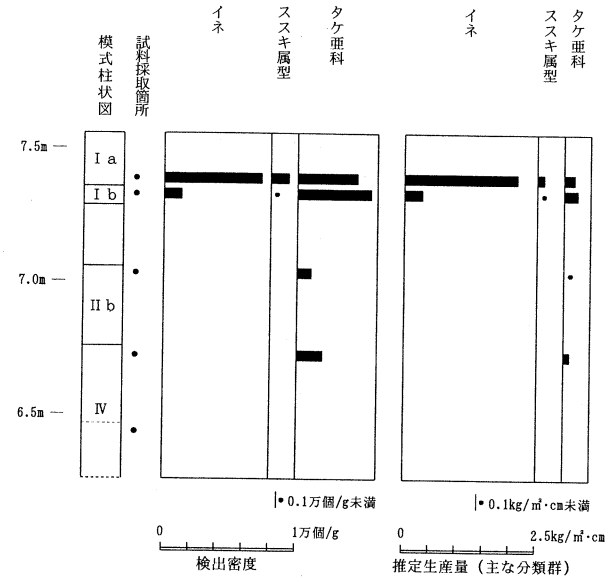
3　No.3

4　No.4

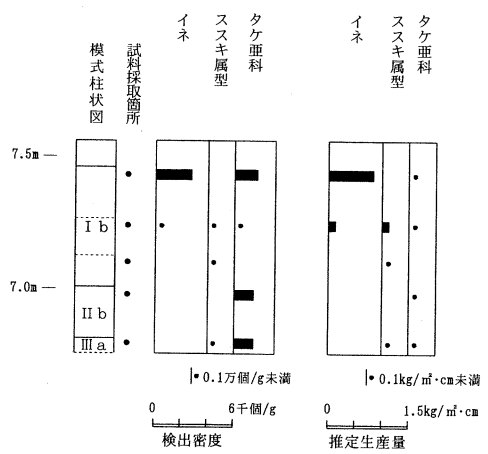
5　No.5

6　No.6

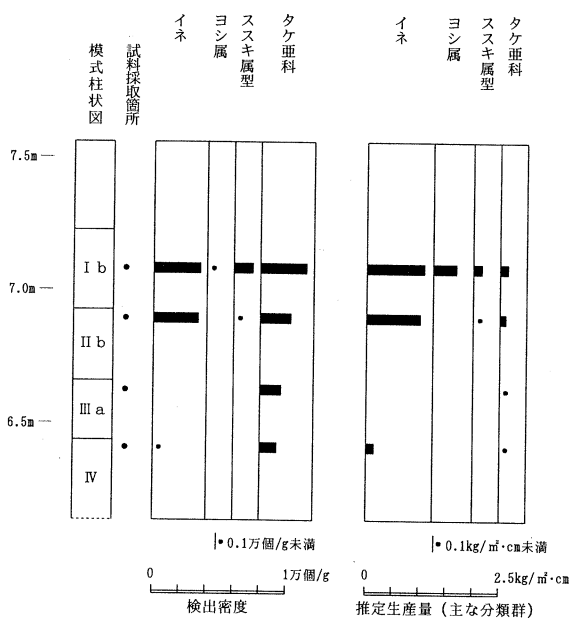
第13図　プラント・オパール分析結果（1），（※主な分類群について表示）



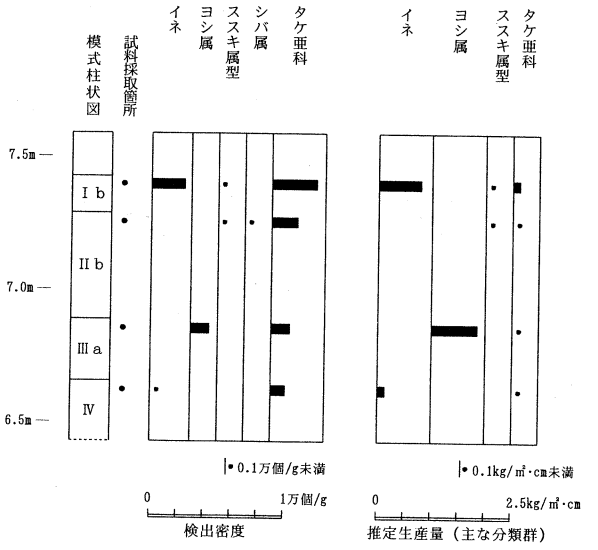
1　No.7



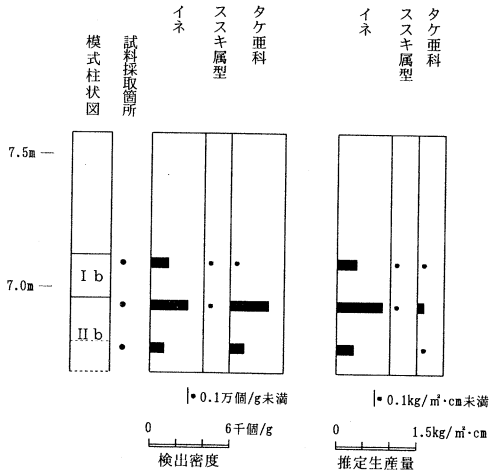
2　No.8



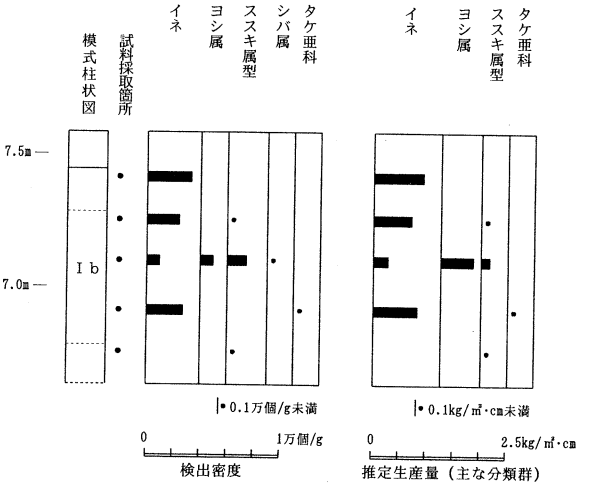
3　No.9



4　No.10

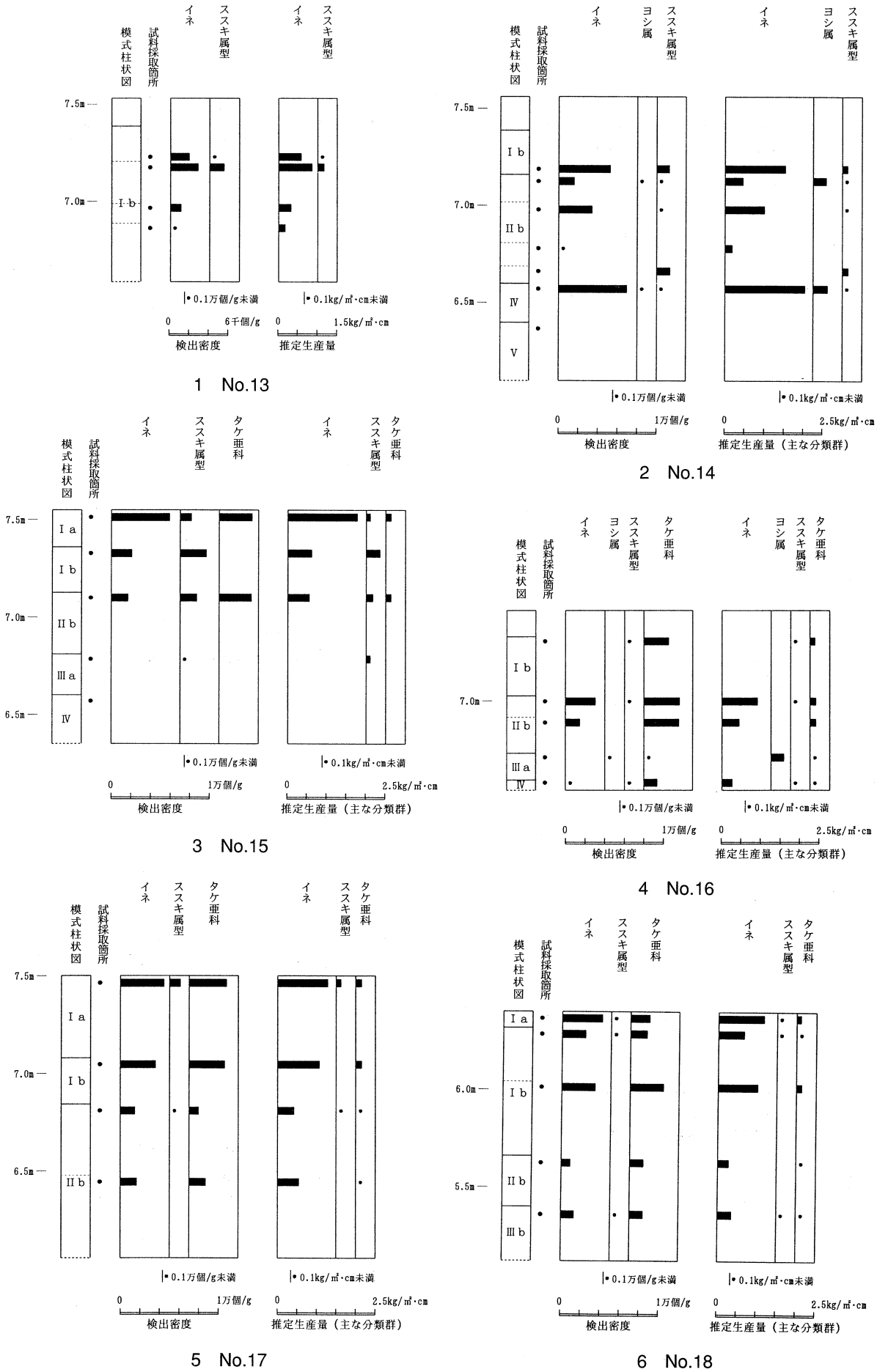


5　No.11

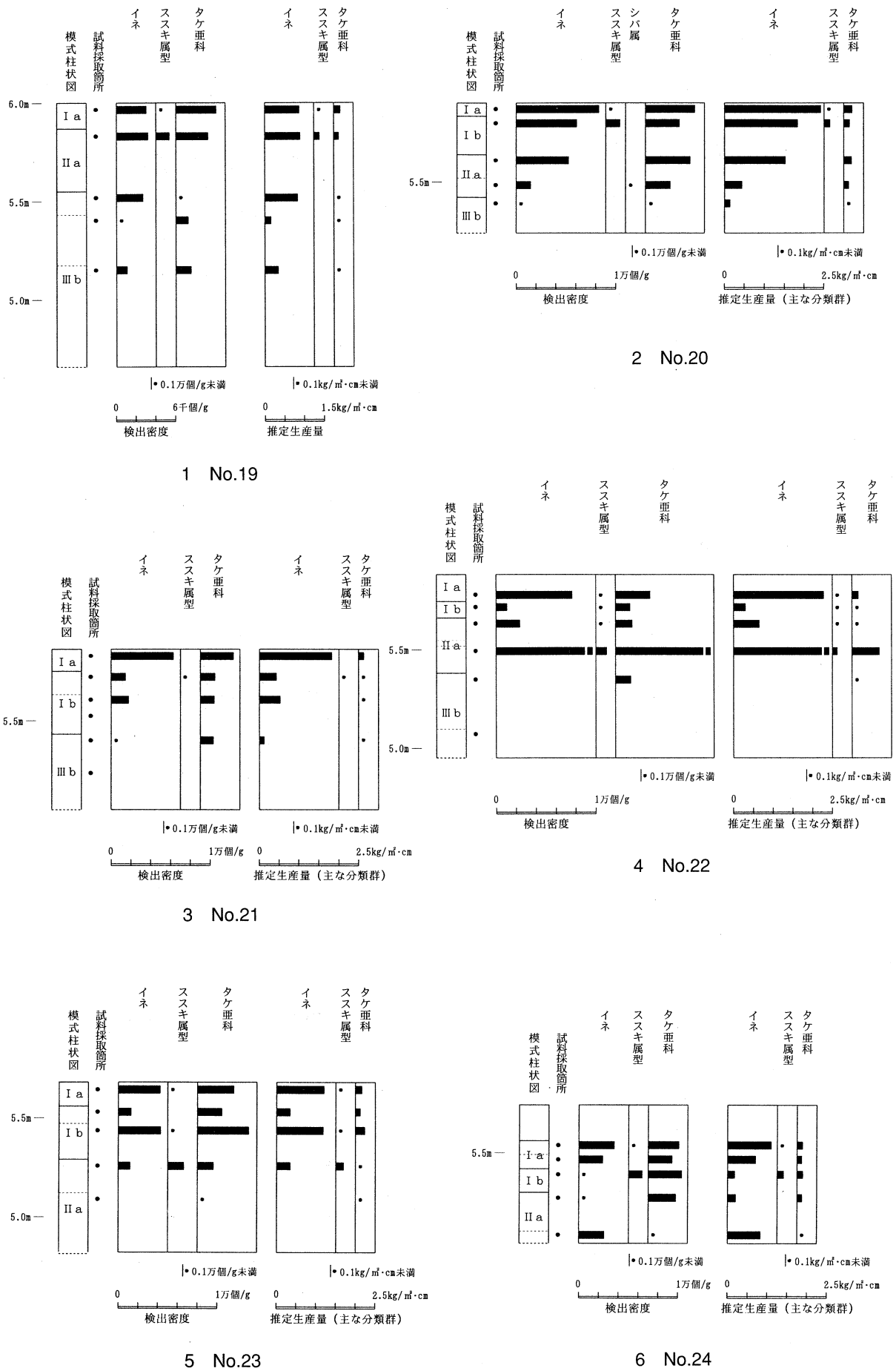


6　No.12

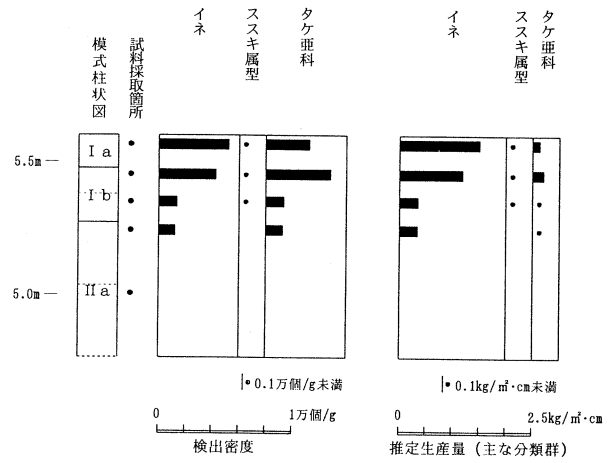
第14図　プラント・オパール分析結果（2），（※主な分類群について表示）



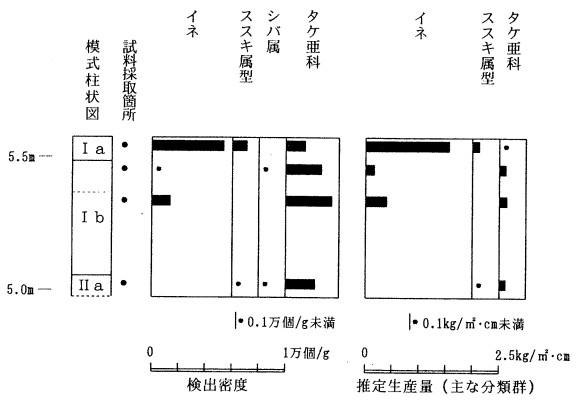
第15図　プラント・オパール分析結果（3），（※主な分類群について表示）



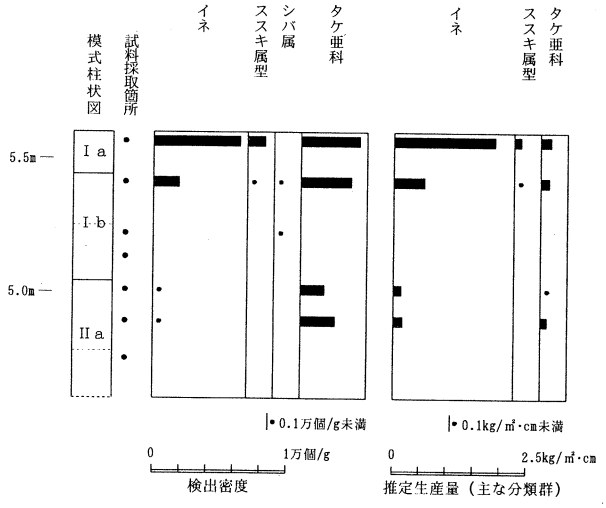
第16図　プラント・オパール分析結果（4），（※主な分類群について表示）



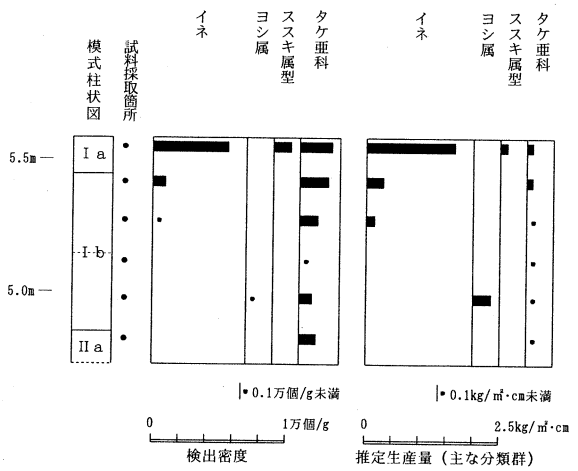
1　No.25



2　No.26



3　No.27



4　No.28

第17図　プラント・オパール分析結果（5），（※主な分類群について表示）

地点	Ⅰa層	Ⅰb層	Ⅰc層	Ⅱa層	Ⅱb層	Ⅲa層	Ⅲb層	Ⅳ層	Ⅴ層
No.1	△	△	△	—	—	—	—	—	—
No.2	△	△	×	—	—	—	—	—	—
No.3	○	△	△	—	—	—	—	—	—
No.4	—	△	△	—	—	—	—	—	—
No.5	—	△	△	—	—	—	—	—	—
No.6	—	—	△	—	—	—	—	—	—
No.7	○	△	—	—	×	—	—	×	—
No.8	—	△	—	—	×	×	—	—	—
No.9	—	△	—	—	△	×	—	△	—
No.10	—	△	—	—	×	×	—	△	—
No.11	—	△	—	—	△	—	—	—	—
No.12	—	△	—	—	—	—	—	—	—
No.13	—	△	—	—	—	—	—	—	—
No.14	—	○	—	—	△	—	—	○	×
No.15	○	△	—	—	△	×	—	×	—
No.16	—	×	—	—	△	×	—	△	—
No.17	△	△	—	—	△	—	—	—	—
No.18	△	△	—	—	△	—	△	—	—
No.19	△	—	—	△	—	—	△	—	—
No.20	○	○	—	○	—	—	△	—	—
No.21	○	△	—	—	—	—	△	—	—
No.22	○	△	—	○	—	—	×	—	—
No.23	△	△	—	△	—	—	—	—	—
No.24	△	△	—	△	—	—	—	—	—
No.25	○	△	—	△	—	—	—	—	—
No.26	○	△	—	×	—	—	—	—	—
No.27	○	△	—	△	—	—	—	—	—
No.28	○	△	—	×	—	—	—	—	—

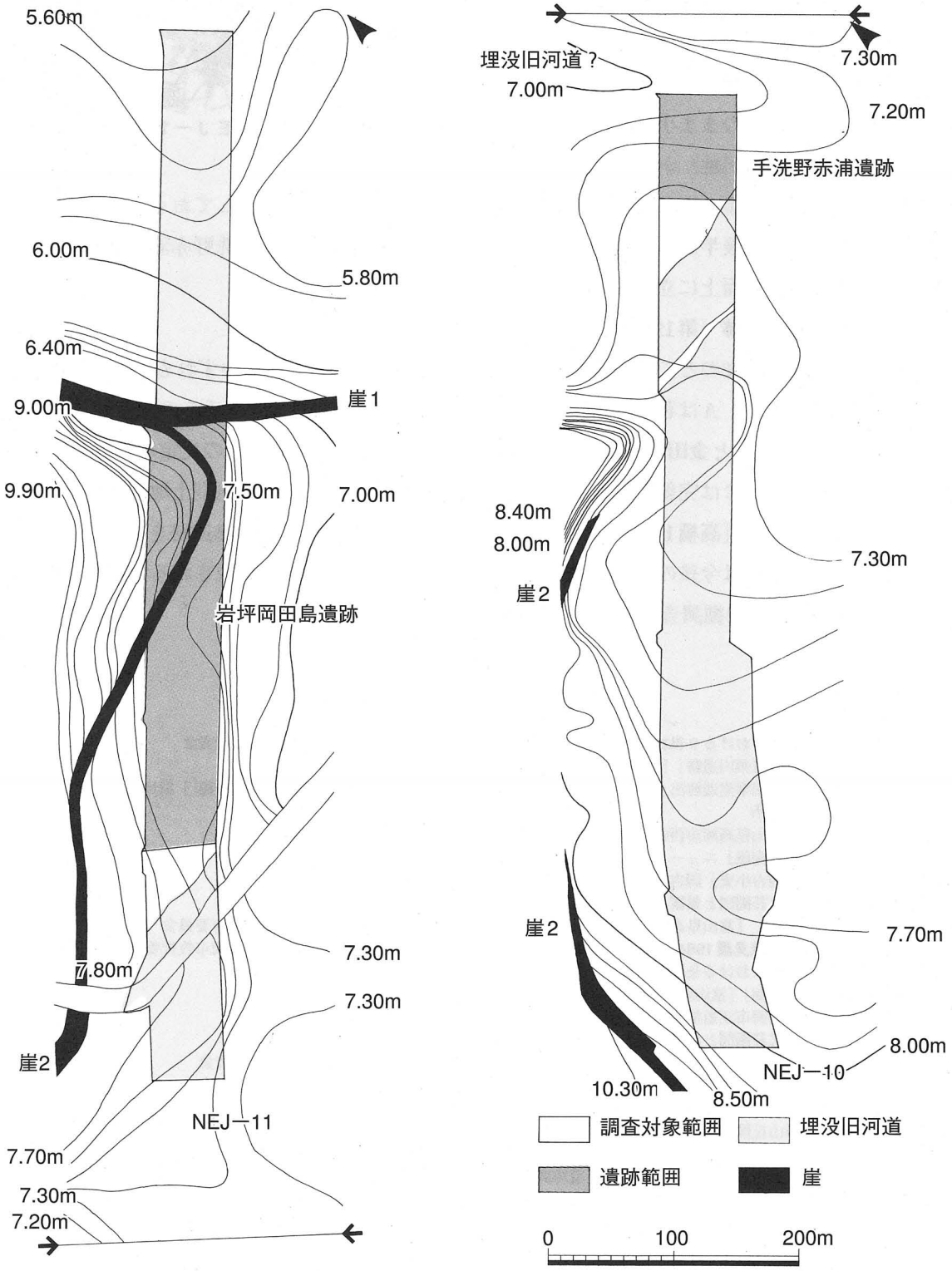
○：稲作跡の可能性が高い，△：稲作跡の可能性がある，×：稲作跡の可能性は認められない，—：該当層が堆積していない

第8表　各地点における稲作跡の可能性

Ⅴ　調査の成果と課題

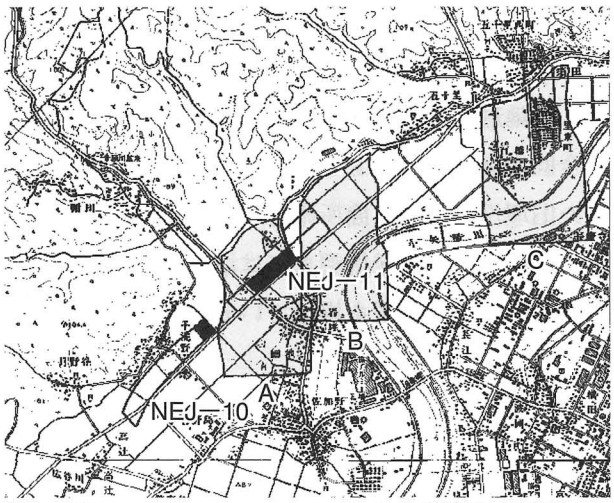
1　微地形と遺跡の立地（第18図，図版２・３）

今回の調査ではＮＥＪ－10で手洗野赤浦遺跡、ＮＥＪ－11で岩坪岡田島遺跡をそれぞれ確認した。また旧埋没河道も５箇所確認した。遺跡と地形は、言うまでもなく密接に関係していると考えられるが、以前はあまり発掘調査には活かされている状態とは言えなかった。近年、高橋学氏はこの点について多くの研究成果を揚げている。その手法は地形環境分析を行い、景観の変遷史を構築するという



第18図　ＮＥＪ－10・ＮＥＪ－11周辺微地形図

ものである［高橋1996等］。ここでは能力不足のため、高橋氏と同様に行うことはできないが、微地形（10cmの等高線図）を作図したものが第18図である。これをみると１～３ｍ差の等高線の繋がらない崖が２カ所みられる。一体となっていた崖１と崖２はＮＥＪ－11の中央やや北で東と南に分岐している。崖１は現在は道路、崖２が水路でそれぞれ傾斜変換点である崖の上に作られたと思われる。この崖は筆者の勝手な解釈だが高橋氏の地形分類の段丘崖に当たると思われる。崖１の北はそのまま小矢部川にいたり、崖２の西は丘陵（急傾斜地）か平坦な面が続いている。このことから崖１の北は現氾濫原面、南は完新世段丘Ⅱ面と推測しておく。高橋氏によれば完新世段丘Ⅱ面は古代後半から中世初頭の形成とされる。今回確認した手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡とも完新世段丘Ⅱ面上に立地することとなる。



第19図　ＮＥＪ－10・ＮＥＪ－11と須加村比定地

２　須加村墾田地と遺跡（第19図）

須加村の比定地は現在のところ３箇所がある［高瀬1976・吉川1996］。いずれも小矢部川左岸の西山丘陵沿いに位置する。Ａは和田一郎氏らの比定地［和田1959］、Ｂは弥永氏らの比定地［弥永他1958］、Ｃは木倉豊信氏と金田章裕氏［金田1998］の比定地である。これらの比定地は前項で検討した地形的にみればＡとＣは完新世段丘面上、Ｂは現氾濫原面上である。条里型土地割は完新世段丘Ⅱ面上に残る場合が多い［高橋1996］とされる。従って今回調査の岩坪岡田島遺跡を含むＡと須田藤ノ木遺跡を含む比定地では今後の発掘調査等で「須加村墾田地」の遺構が確認される可能性が高いと考えられる。この点は、発掘調査の課題として今後に期待したい。（岡本）

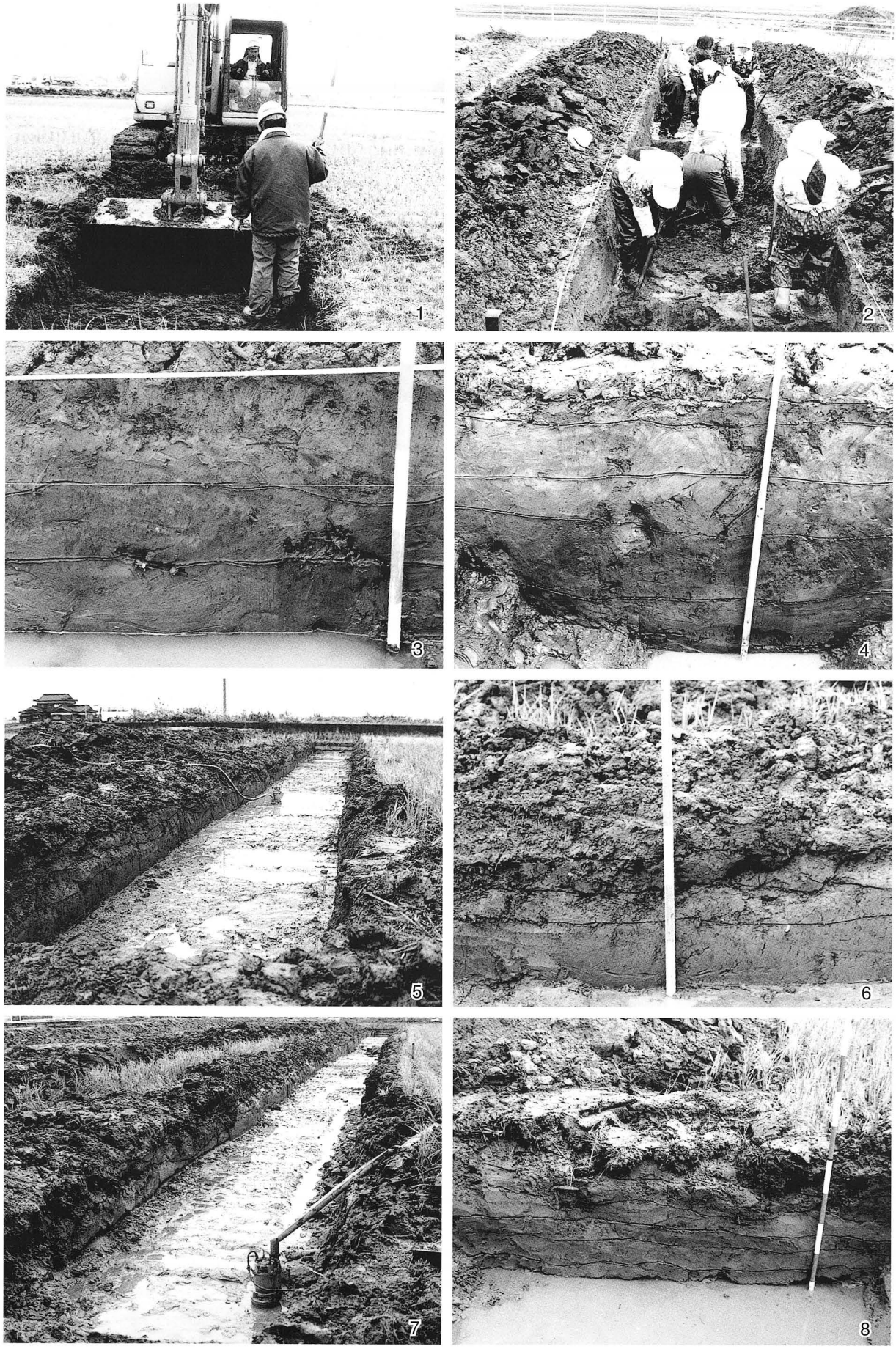
引用・参考文献

イ　**池野正男1996**　「越中における９世紀代の土器様相」『北陸の９世紀代の土器様相』北陸古代時研究会
ウ　**上野　章1974**　「高岡市頭川遺跡」『大境』第５号　富山考古学会
エ　**越前慎子1996**　「梅原胡摩堂遺跡出土中世土師器Ⅲの編年」『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺物編）』財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
オ　**大野文郷編1985**　『富山県高岡市西山丘陵埋蔵文化財分布調査概報Ⅱ』高岡市教育委員会
　　大橋康二1988　『肥前陶磁』ニュー・サイエンス社
キ　**京谷準一編1966**　『国吉小史』国吉小史刊行委員会
　　金田章裕1998　『古代荘園図と景観』東京大学出版会
サ　**酒井重洋・逸見護1983**　『富山県高岡市頭川城ケ平横穴墓群第Ⅰ次緊急発掘調査概要』高岡市教育委員会
　　酒井重洋・大野文郷・逸見護1984　『富山県高岡市頭川城ケ平横穴墓群第Ⅱ次発掘調査報告』高岡市教育委員会
タ　**高瀬重雄1963**　「越中における条里の研究」『越中史壇』27
　　高瀬重雄1976　「条里制」『富山県史』通史編Ⅰ原始・古代　富山県
　　高瀬重雄編1957　『高岡市江道横穴古墳群調査報告書』高岡市史料編纂委員会
　　高橋　学1996　「古代荘園図と自然環境」『日本古代荘園図』東京大学出版会
テ　**出越茂和1997**「北陸古代後半における椀・Ⅲ食器（後）」『北陸古代土器研究』北陸古代土器研究会
ナ　**永井久美男編1994**　『中世の出土銭』兵庫埋蔵銭調査会
ヤ　**弥永貞三・亀田隆之・新井喜久夫1958**　「越中国東大寺領庄園絵図について」『続日本紀研究』五巻二号
　　山口辰一1988　『西山丘陵埋蔵文化財分布調査概報Ⅴ』高岡市教育委員会
　　山口辰一1993　『市内遺跡調査概報Ⅲ－平成３年度，柴野遺跡の調査他－』高岡市教育委員会
　　山口辰一他1997　『麻生谷遺跡・麻生谷新生園遺跡調査報告』（『高岡市埋蔵文化財調査報告第１冊』）高岡市教育委員会
　　山口辰一・邑本順亮1998　『市内遺跡調査概報Ⅷ－平成９年度麻生谷新生園遺跡の調査他－』高岡市教育委員会
ヨ　**吉岡康暢1994**　『中世須恵器の研究』吉川弘文館
　　吉川敏子1996　「越中国射水郡東大寺領荘園図」『日本古代荘園図』東京大学出版会
ワ　**和田一郎編1959**　『高岡市史』上巻　青林書院新社

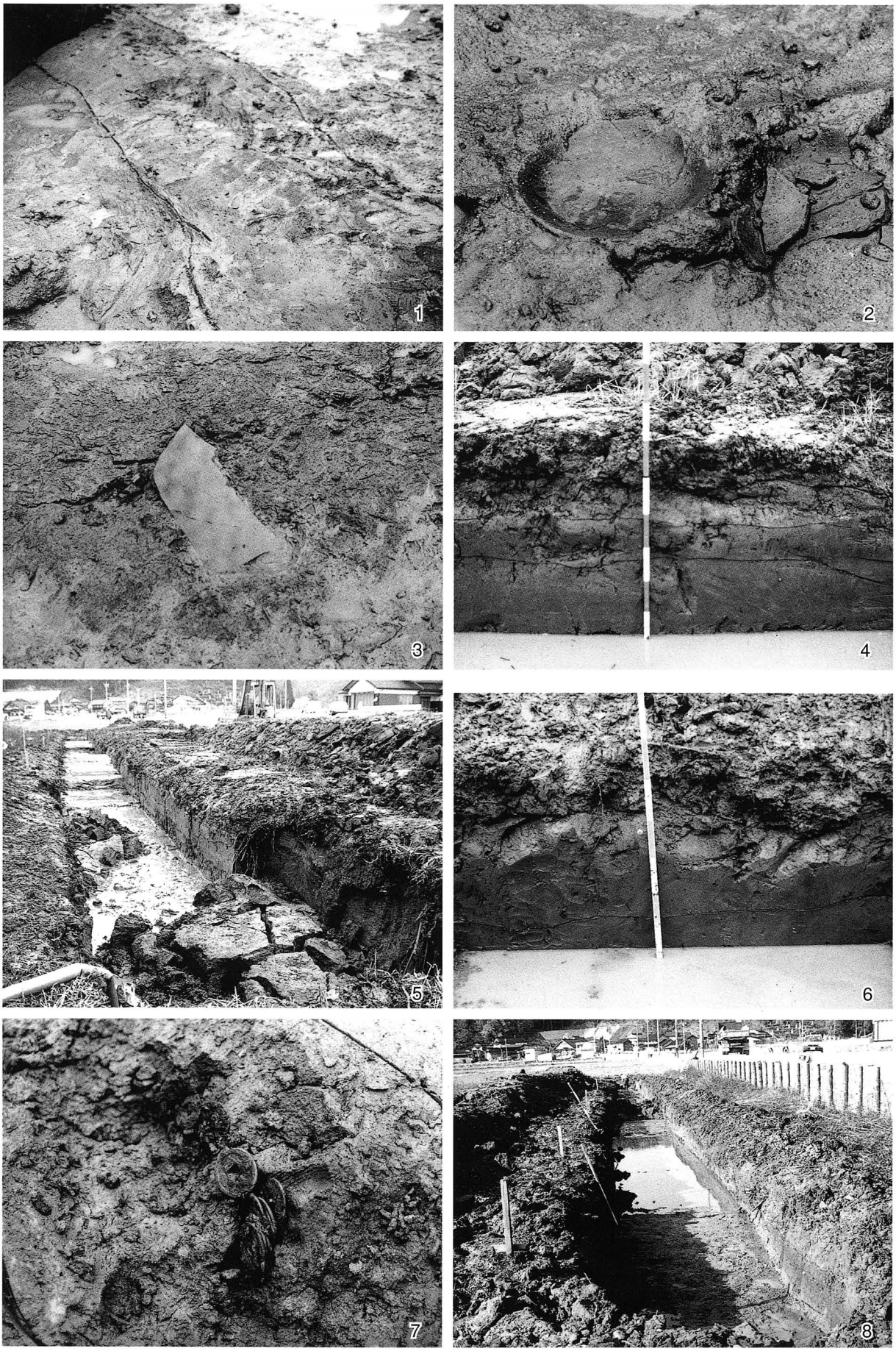
図版1　全景　　1　南から　　2　北から

図版2　航空写真（1946年撮影）

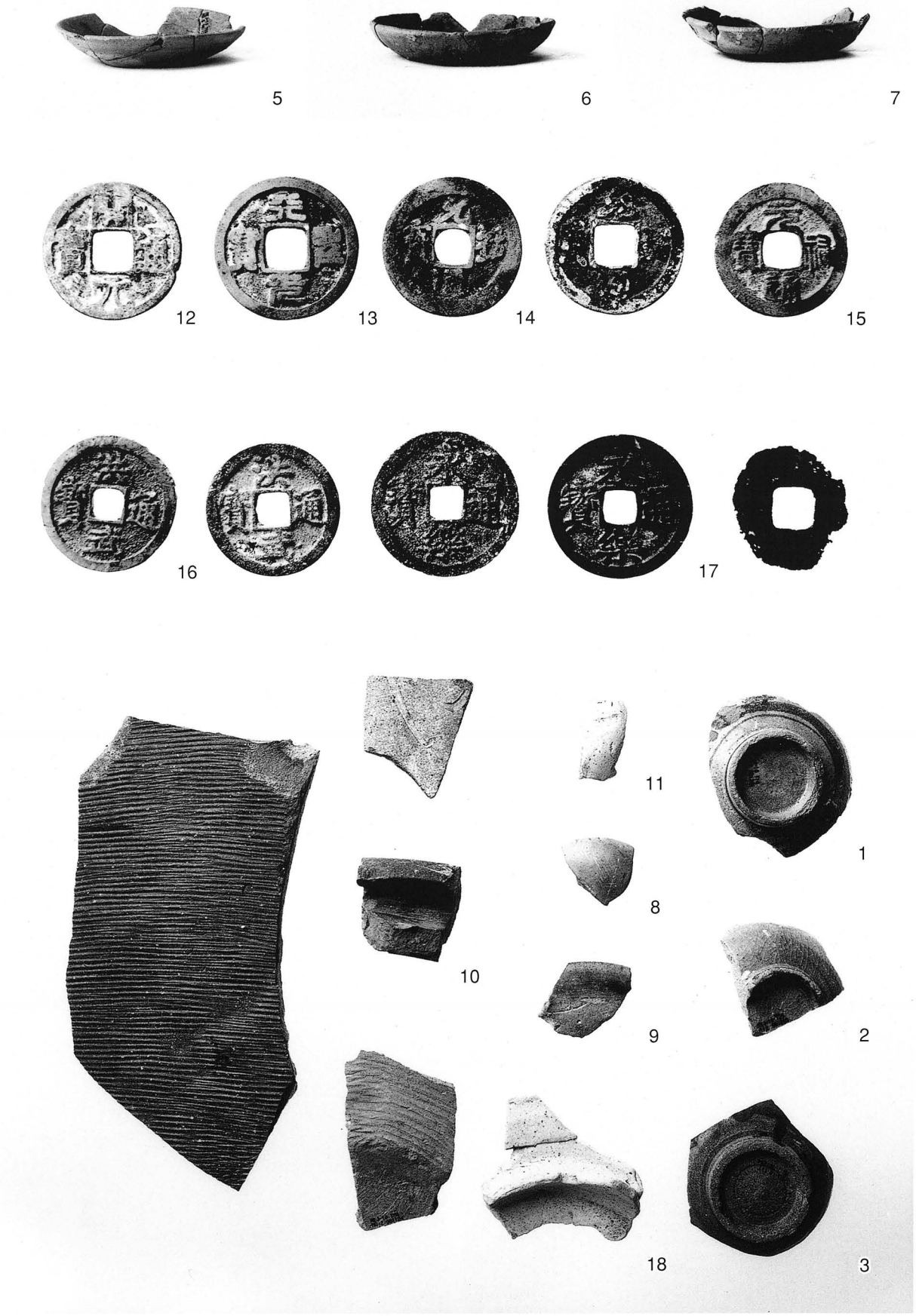
図版3　航空写真（1994年撮影）



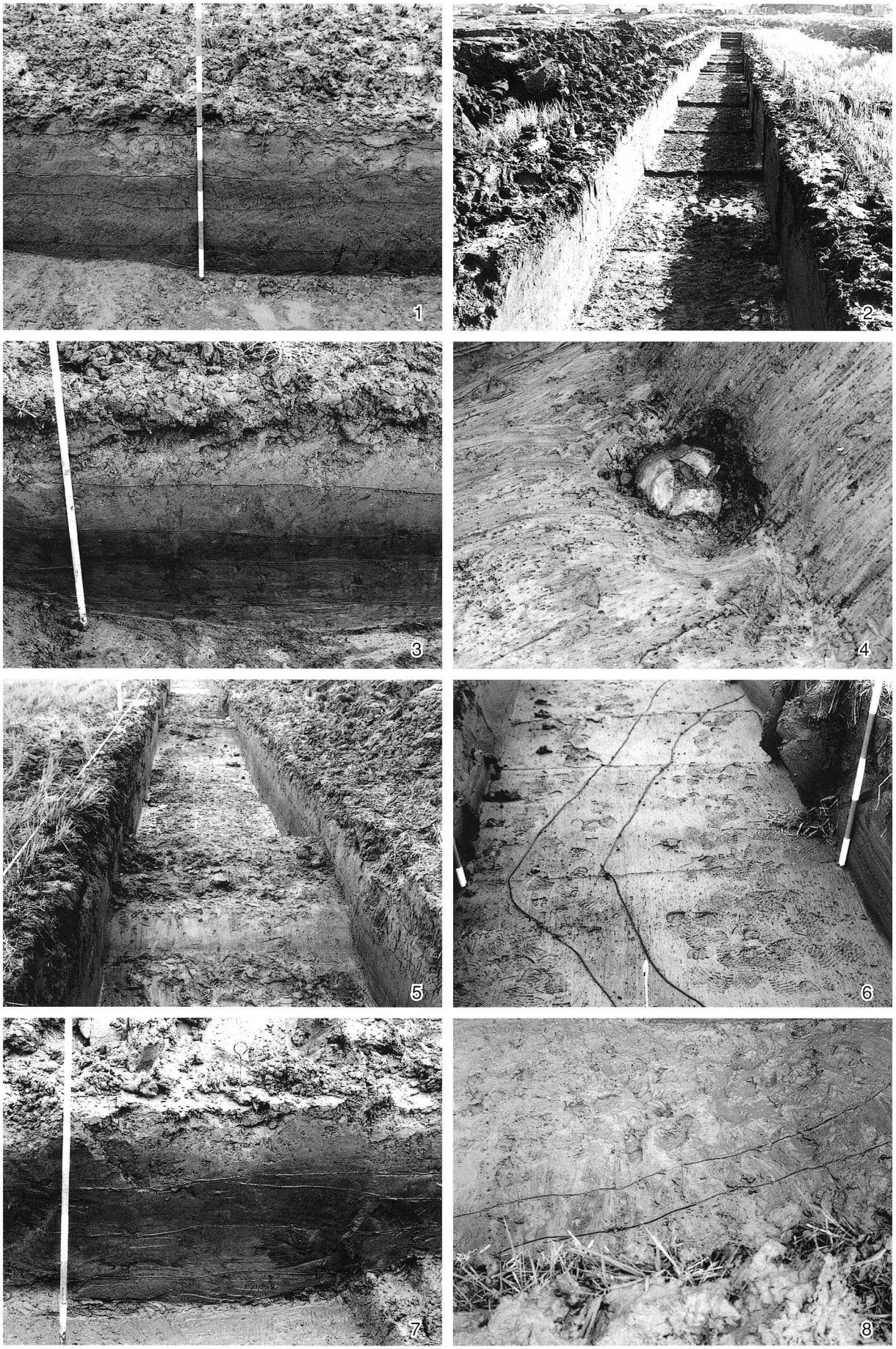
図版4　作業風景・ＮＥＪ－10　　1・2　作業風景　　3　Ｔ 19　　4　Ｔ 38　5・6　Ｔ 52　　7・8　Ｔ 53



図版5　ＮＥＪ－10　1　Ｔ 53　2・3　Ｔ 53遺物出土状況　4　Ｔ 54　5・6　Ｔ 55　7　Ｔ 55遺物出土状況
8　Ｔ 56

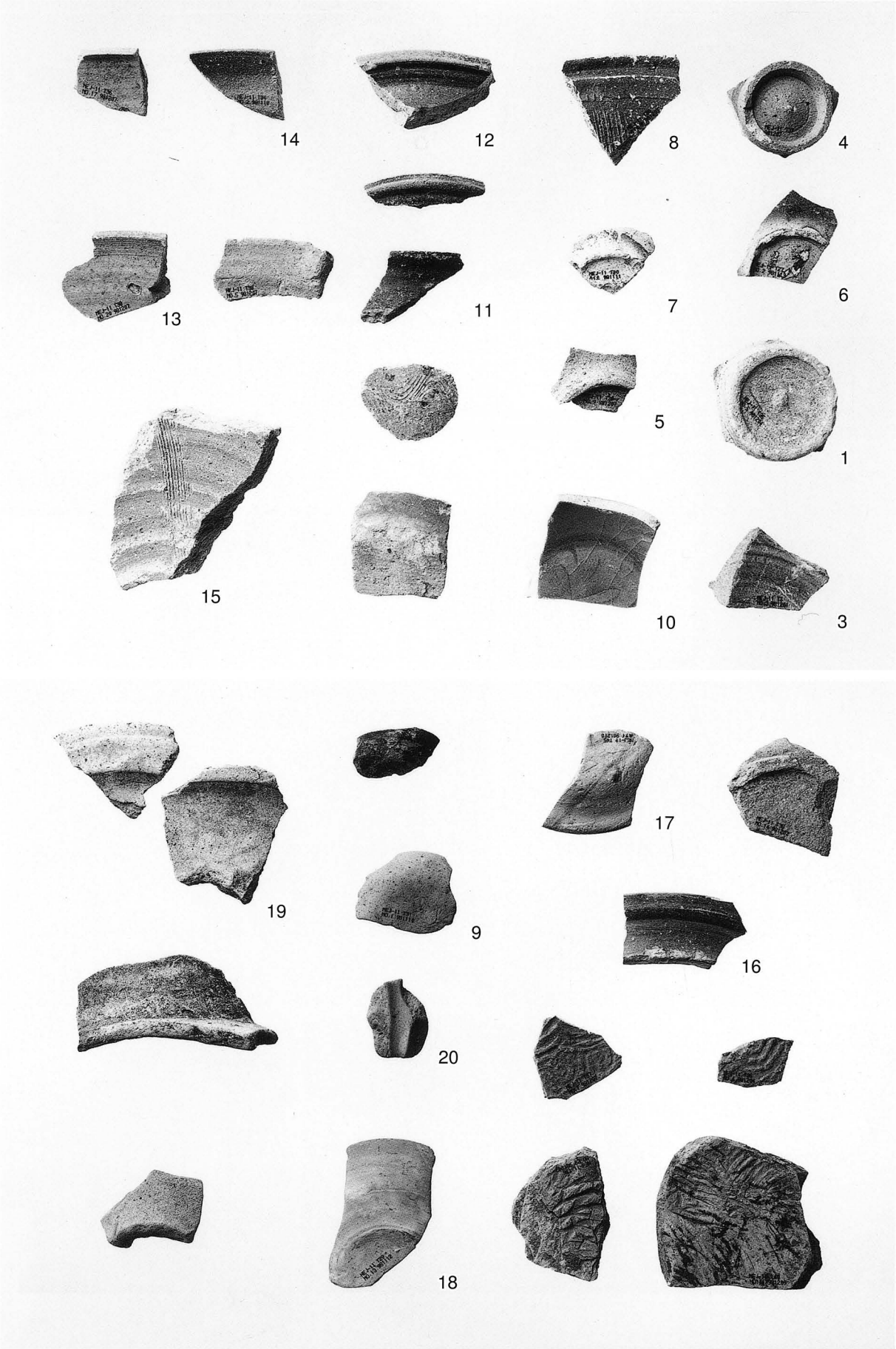


図版6　ＮＥＪ－10出土遺物　（1：3，写真中の番号は第7図と対応）

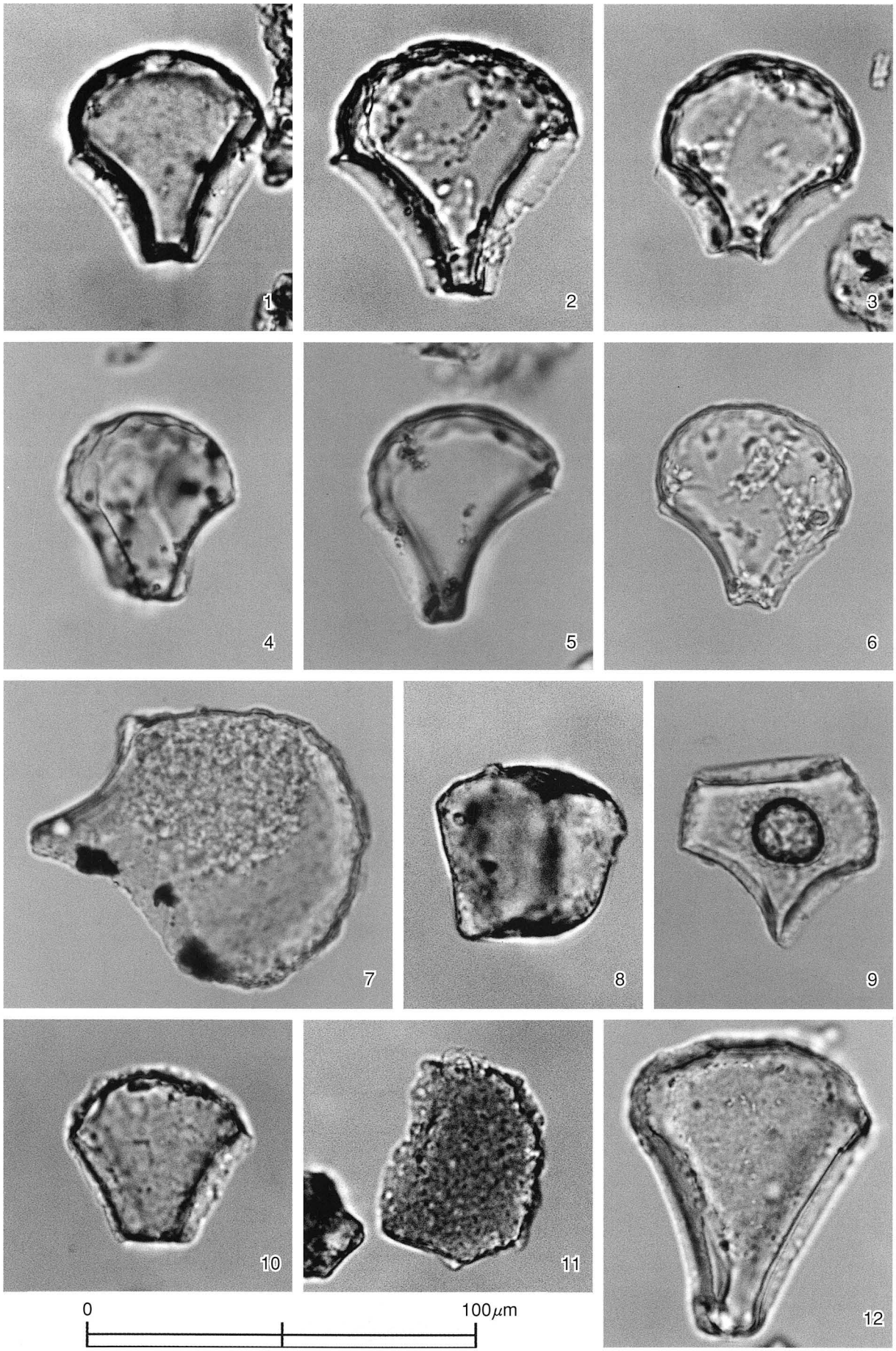


図版7　ＮＥＪ－11　1　Ｔ５　2　Ｔ20　3　Ｔ29　4　Ｔ29遺物出土状況　5　Ｔ30　6　Ｔ30遺構
7　Ｔ31　8　Ｔ31遺構

図版8　ＮＥＪ－11　1　Ｔ36遺構　2　Ｔ37　3　Ｔ37遺構　4　Ｔ38　5　Ｔ39　6　Ｔ39遺物出土状況　7　Ｔ40　8　Ｔ43



図版9　ＮＥＪ－11出土遺物　（1：3，写真中の番号は第11図と対応）



図版10　植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真　1　イネ（No.3 Ⅰa層）　2　イネ（No.6 Ⅰc層）　3　イネ（No.22 Ⅱa層）　4　イネ（No.11 Ⅱb層）　5　イネ（No.19 Ⅲb層）　6　イネ（No.14 Ⅳ層）　7　ヨシ属（No.10 Ⅲa層）　8　ウシクサ族（ススキ属）(No.14 Ⅱb層）　9　シバ属（No.10 Ⅱb層）　10　タケ亜科（ネザサ節型）(No.18 Ⅰa層）　11　タケ亜科（クマザサ属型）(No.18 Ⅰa層）　12　ウシクサ族（大型）(No.23 Ⅱa層）

報告書抄録

ふ り が な	のうえつじどうしゃどうかんけいまいぞうぶんかざいほうぞうちちょうさほうこく
書　　名	能越自動車道関係埋蔵文化財包蔵地調査報告－ＮＥＪ-10・ＮＥＪ-11－
シ リ ー ズ 名	富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告
シリーズ番号	第10集
編 著 者 名	岡本淳一郎、深堀茜、中野由紀子、平井晶子、松田隆二
編 集 機 関	財団法人富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査事務所
所　在　地	〒930-0887　富山県富山市五福4384番１号　　TEL0764－42－4229
発行年月日	西暦1999年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
ＮＥＪ－10	たかおかしくにより 高岡市国吉	16202	232	36° 45′ 20″	136° 58′ 04″	19981124 ～ 19981207	45,600 （対象 面積）	能越自動車道建設に伴う試掘確認調査
ＮＥＪ－11	たかおかしくにより 高岡市国吉	16202	233	36° 45′ 42″	136° 58′ 31″	19981109 ～ 19981212	46,800 （対象 面積）	能越自動車道建設に伴う試掘確認調査

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
ＮＥＪ－10	集落	古代		須恵器	手洗野赤浦遺跡とする
		中世	溝	中世土師器・珠洲	
		近世		越中瀬戸・陶磁器	
ＮＥＪ－11	集落	弥生		弥生土器	岩坪岡田島遺跡とする
		古代		須恵器・土師器	
		中世	溝・土坑・小穴	輸入陶磁器・中世土師器・珠洲	

富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第10集

能越自動車道関係埋蔵文化財包蔵地調査報告

―――ＮＥＪ－10・ＮＥＪ－11―――

編集・発行　財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所

〒930-0887　富山市五福4384番1号
ＴＥＬ0764－42－4229

発　行　日　1999（平成11）年3月31日

印　　刷　有限会社日本海印刷